

在宅介護実態調査 結果報告書

令和5年3月

大 野 市

目次

I. 調査の概要	1
1. 調査の概要	1
2. 本報告書の留意点	1
II. 調査結果	2
1. 回答者の属性	2
(1) 性別	2
(2) 年齢	2
(3) 要介護度	3
(4) 認知症自立度	4
2. 基本調査項目（A票）	5
(1) 世帯類型	5
(2) 家族等による介護の頻度	6
(3) 主な介護者について	7
(4) 主な介護者が行っている介護	9
(5) 介護のための離職の有無	11
(6) 介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況	12
(7) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス	15
(8) 施設等検討の状況	19
(9) 本人が抱えている傷病	21
(10) 訪問診療の利用の有無	24
(11) 介護保険サービスについての利用の有無	25
3. 主な介護者に関する調査項目（B票）	26
(1) 主な介護者の勤務形態	26
(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況	27
(3) 就労継続に効果的な勤め先からの支援	29
(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識	31
(5) 主な介護者の介護負担	32
(6) 主な介護者が不安に感じる介護	35

I. 調査の概要

1. 調査の概要

高齢者福祉計画及び第9期介護保険事業計画策定にあたって、高齢者等の適切な在宅生活の継続、家族等介護者の就労継続に向けた介護サービスのあり方を検討する基礎資料を得るため、国の示す調査手法に基づき、在宅介護実態調査を実施しました。

調査目的・対象者・回収率等

項目	内容
対象者	令和4年10月1日～12月28日の期間中に要介護認定調査を受ける者で更新申請・区分変更申請をする者（入院、施設入所者を除く）
調査方法	認定調査員に関する聞き取り調査
調査時期	令和4年10月～12月
対象者	105人
有効回収数	82票
有効回収率	78.1%

2. 本報告書の留意点

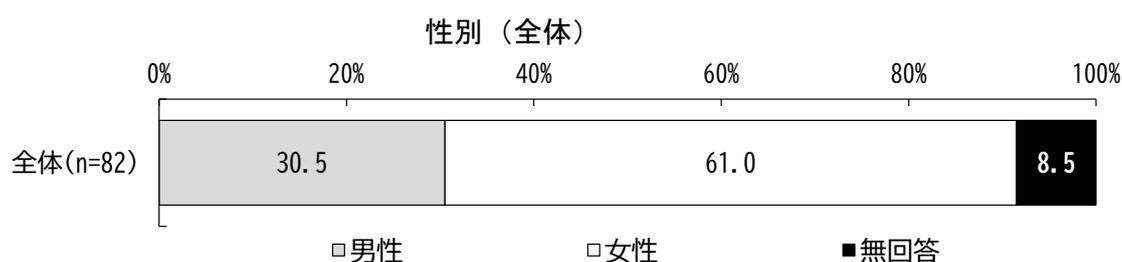
- ・比率は百分率（%）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が100%を上下する場合があります。
- ・基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率は“n=〇〇〇”を100%として算出しています。
- ・グラフに【複数回答】とある問は、1人の回答者が複数の回答を出してもよい問のため、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- ・問の中には回答を限定する問があり、回答者の数が少ない問が含まれます。

Ⅱ. 調査結果

1. 回答者の属性

(1) 性別

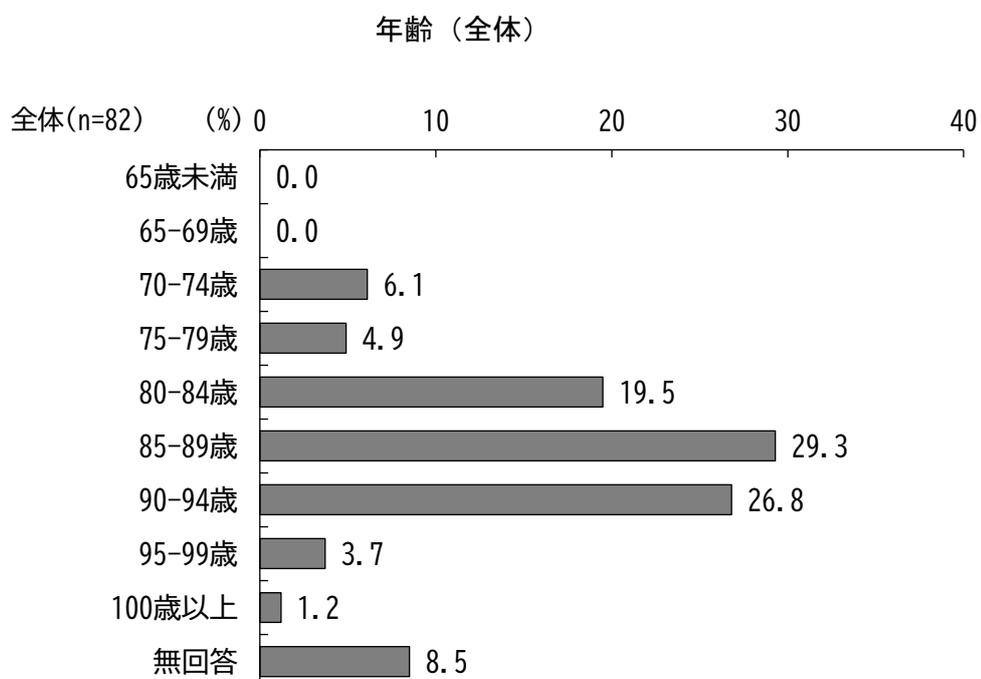
回答者の性別は、「女性」が61.0%、「男性」が30.5%となっています。



(2) 年齢

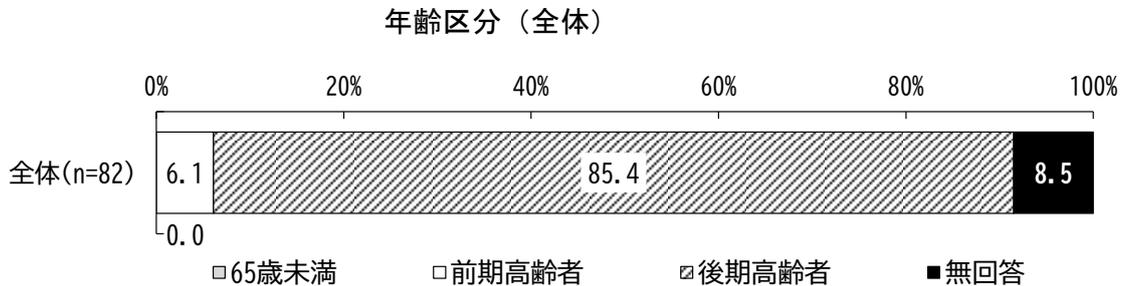
① 年齢

回答者の年齢は、「85-89歳」が29.3%で最も多く、次いで「90-94歳」(26.8%)、「80-84歳」(19.5%)が続きます。



②年齢区分

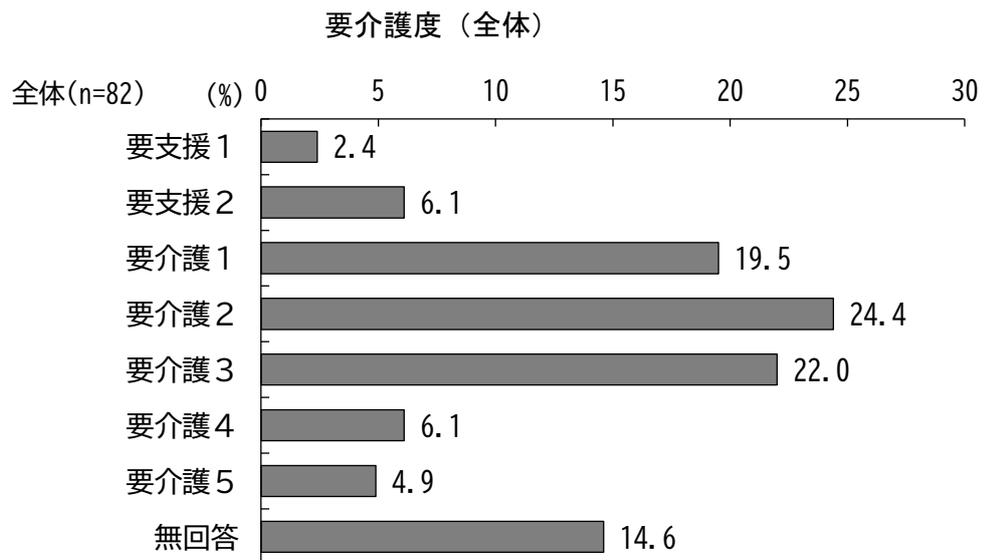
回答者の年齢区分は、「後期高齢者」が85.4%、「前期高齢者」が6.1%、「65歳未満」が0.0%となっています。



(3) 要介護度

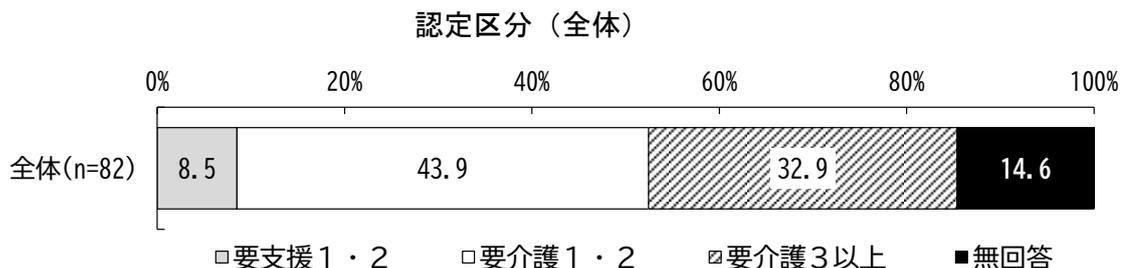
①要介護度

回答者の要介護度は、「要介護2」が24.4%で最も多く、次いで「要介護3」(22.0%)、「要介護1」(19.5%)が続きます。



②認定区分

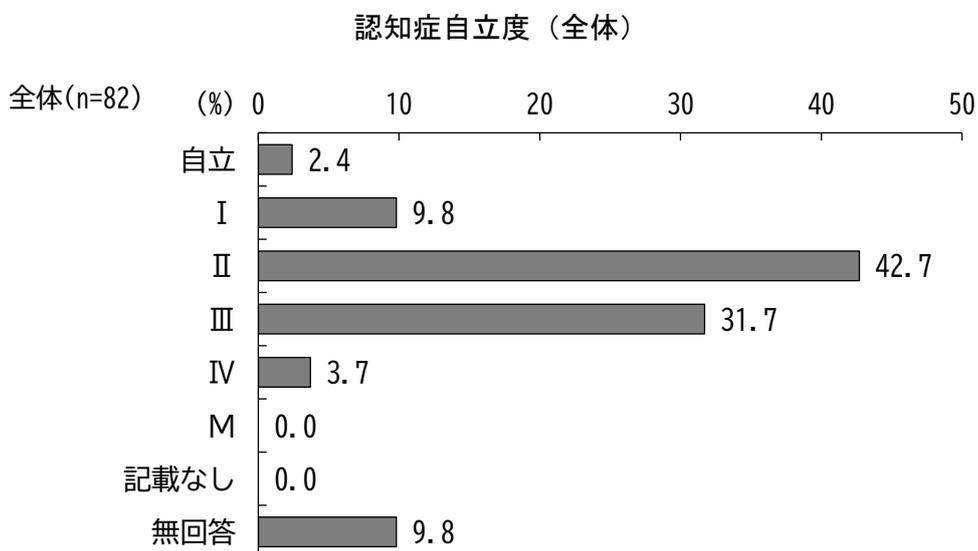
回答者の要介護度の区分は、「要支援1・2」が43.9%で最も多く、次いで「要介護3以上」が32.9%、「要支援1・2」が8.5%となっています。



(4) 認知症自立度

①認知症自立度

回答者の認知症自立度は、「Ⅱ」が42.7%で最も多く、次いで「Ⅲ」(31.7%)、「Ⅰ」(9.8%)が続きます。



認知症自立度の判断基準

ランク	判断基準
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。
II	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。
III	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。
IV	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。
M	著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。

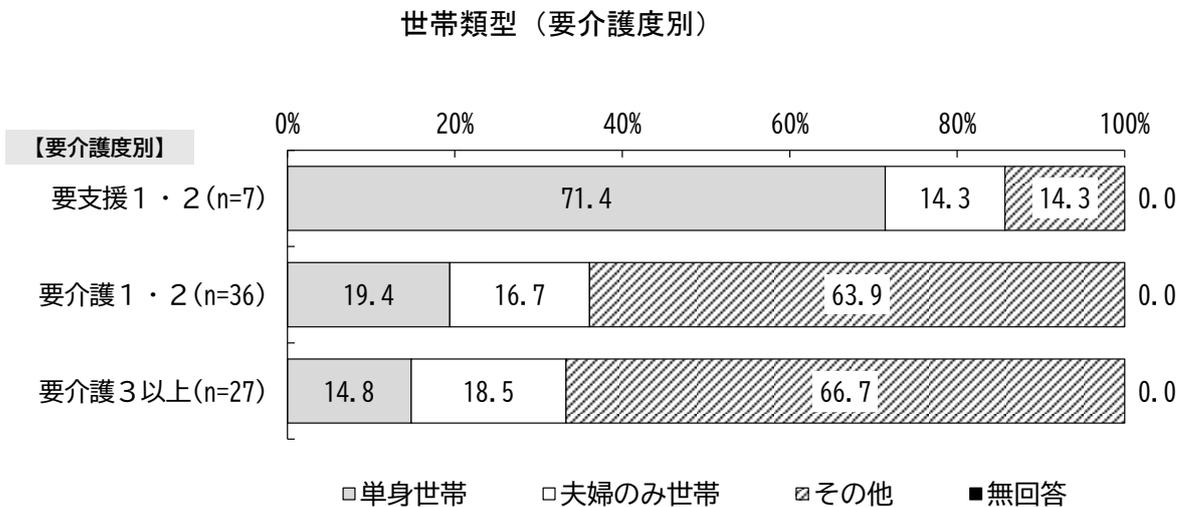
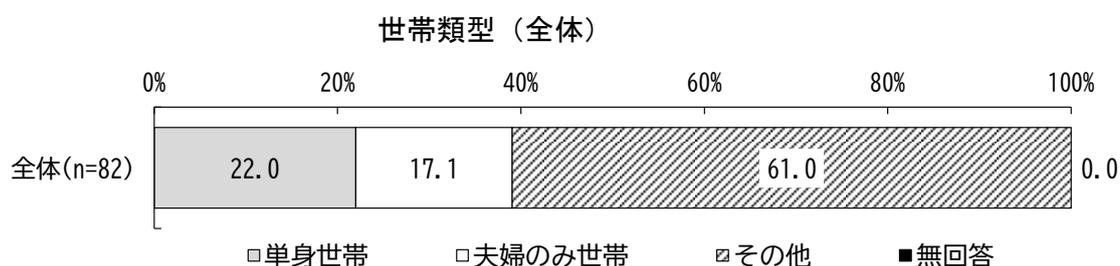
2. 基本調査項目（A票）

（1）世帯類型

設問	A票問1 世帯類型について、ご回答ください
----	-----------------------

世帯類型については、「その他」が61.0%で最も多く、次いで「単身世帯」が22.0%、「夫婦のみ世帯」が17.1%で続きます。

要介護度別でみると、要支援1・2では「単身世帯」が71.4%となっていますが、要介護では「その他」が6割以上の多数を占めています。



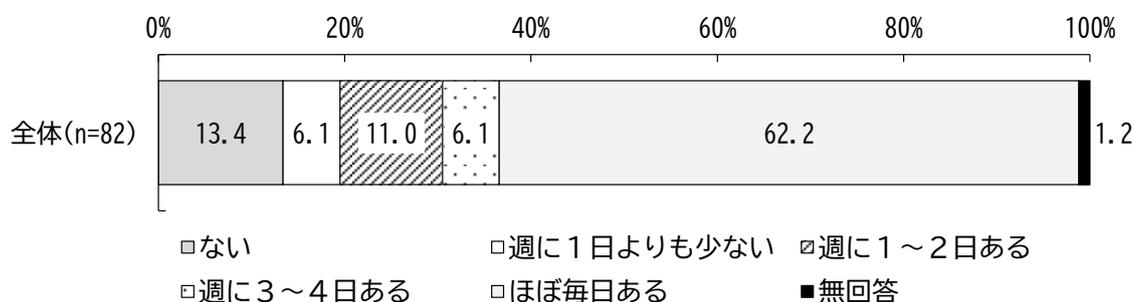
(2) 家族等による介護の頻度

設問	A 票問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか (同居していない子どもや親族等からの介護を含む)
----	--

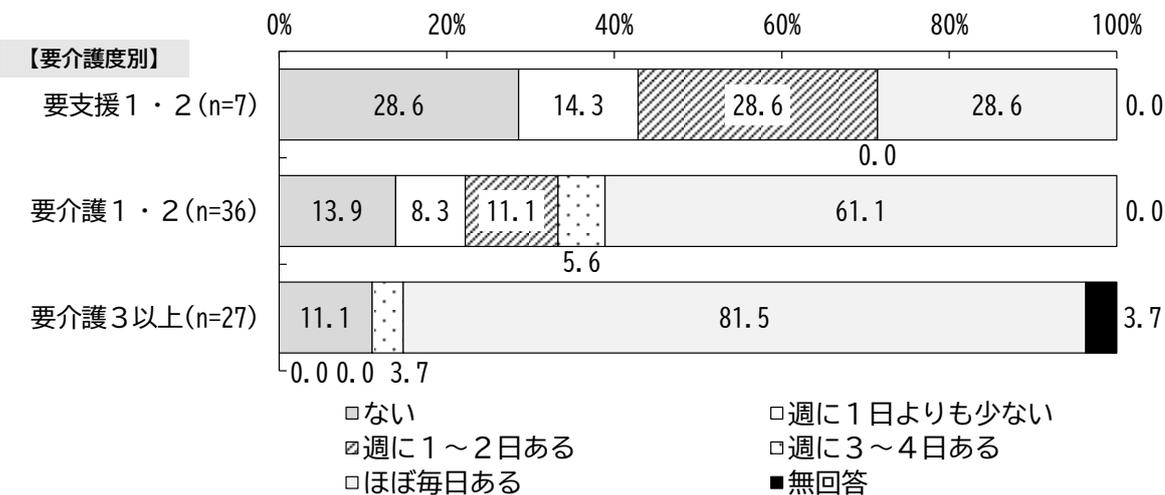
家族等による介護の頻度については、「ほぼ毎日ある」が62.2%を占め、次いで「ない」が13.4%、「週に1～2回ある」が11.0%で続きます。

要介護度別でみると、要支援1・2では「ない」、「週に1～2回ある」及び「ほぼ毎日ある」がそれぞれ28.6%となっていますが、要介護では「ほぼ毎日ある」が多数を占め、要介護3以上では81.5%となっています。

家族等による介護の頻度（全体）



主な介護・介助者（要介護度別）

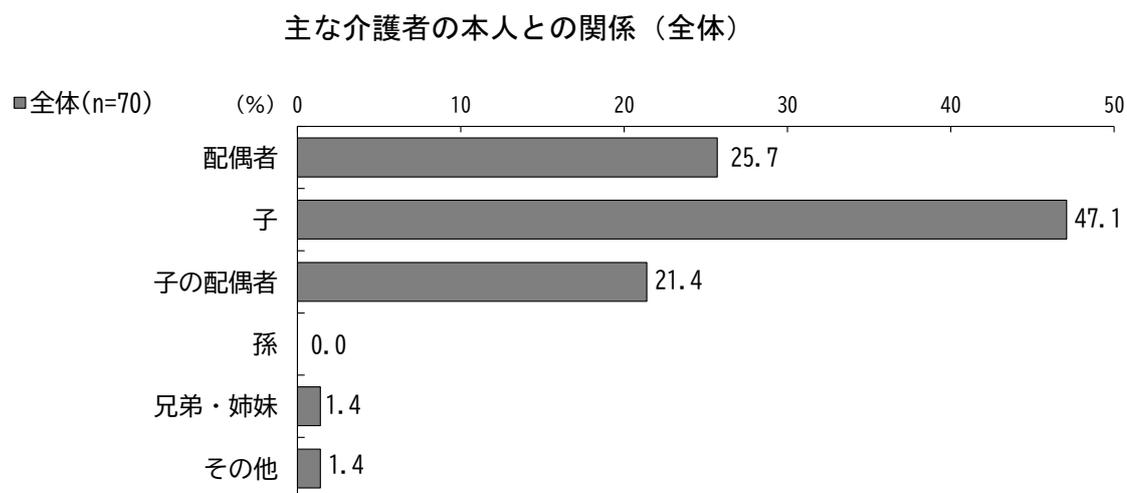


(3) 主な介護者について

設問	A 票問 3	主な介護者の方は、どなたですか
	A 票問 4	主な介護者の方の性別について、ご回答ください
	A 票問 5	主な介護者の方の年齢について、ご回答ください

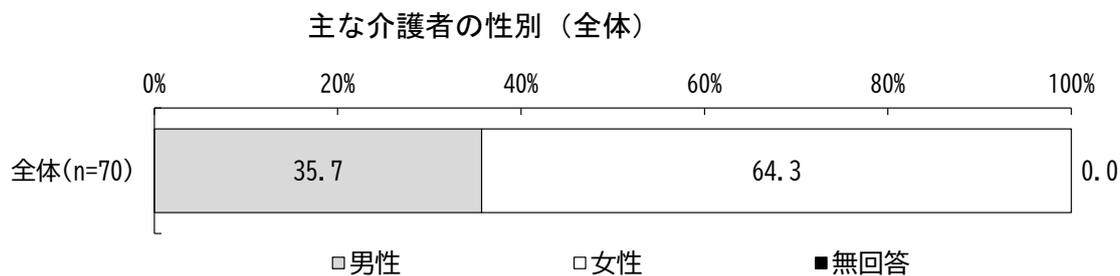
① 主な介護者の本人との関係

主な介護者の本人との関係については、「子」が 47.1% で最も多く、次いで「配偶者」(25.7%)、「子の配偶者」(21.4%) が続きます。



② 主な介護者の性別

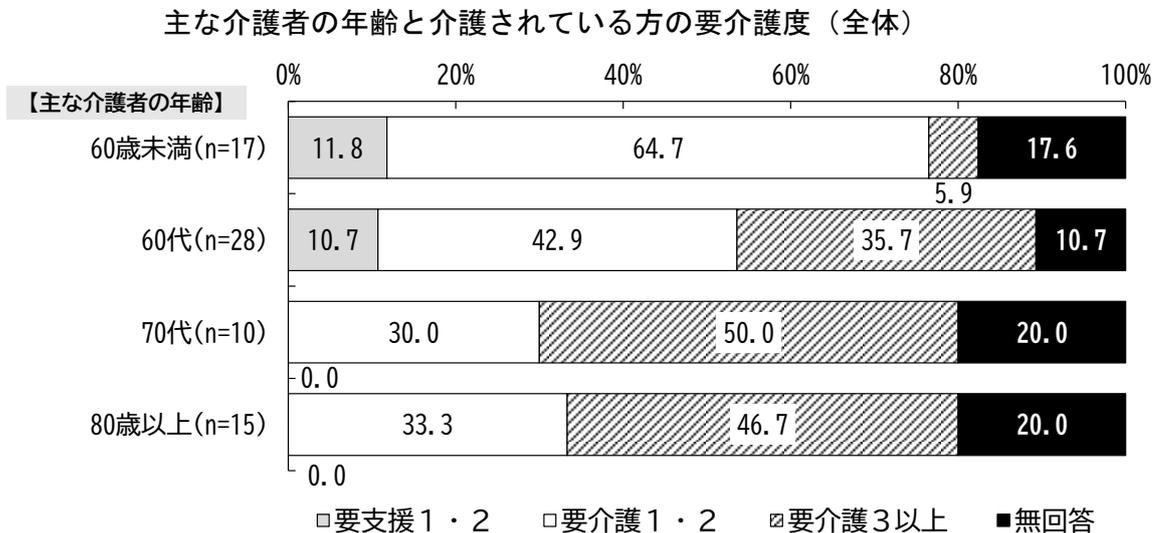
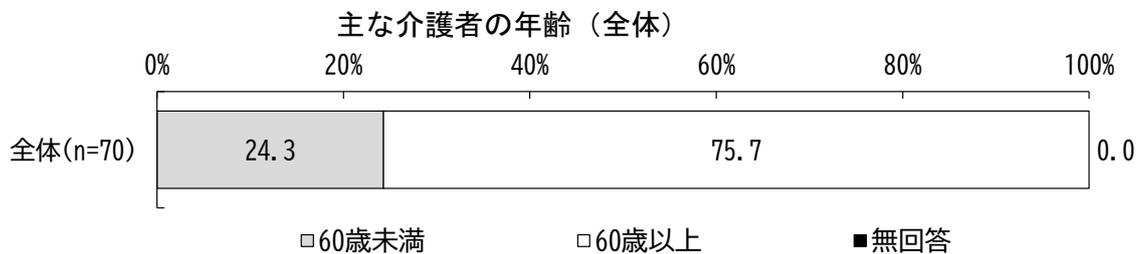
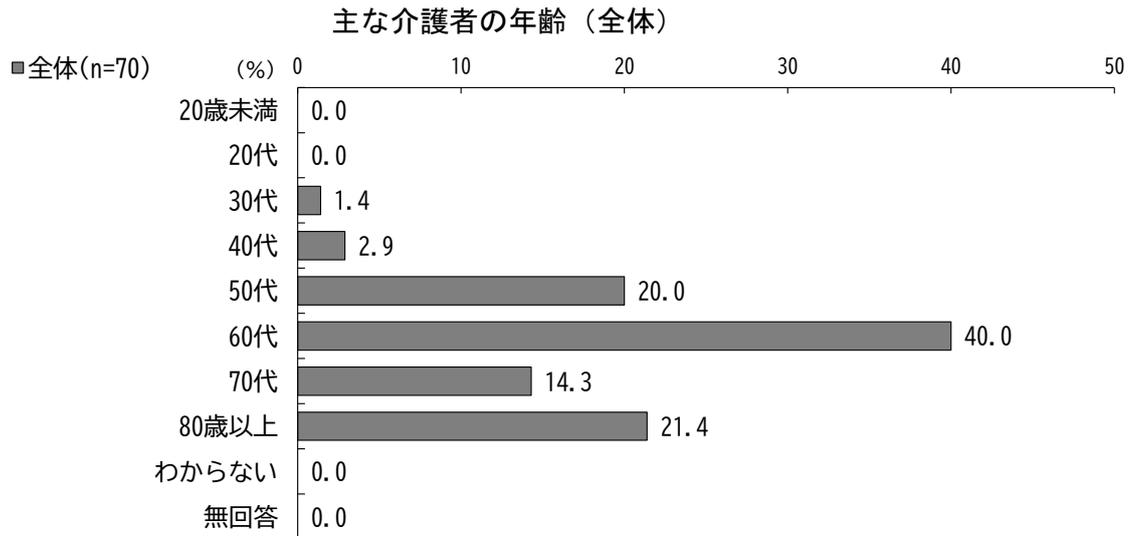
主な介護者の性別については、「女性」が 64.3%、「男性」が 35.7% となっています。



③主な介護者の年齢

主な介護者の年齢については、「60代」が40.0%で最も多く、次いで「80歳以上」(21.4%)、「50代」(20.0%)、「70代」(14.3%)が続き、60歳以上は75.7%、60歳未満は24.3%となっています。

主な介護者の年齢別に介護されている方の要介護度をみると、「要介護3以上」が70代で50.0%、80歳以上で46.7%となっており、高齢の介護者が要介護度の重い方を介護している状況がみられます。



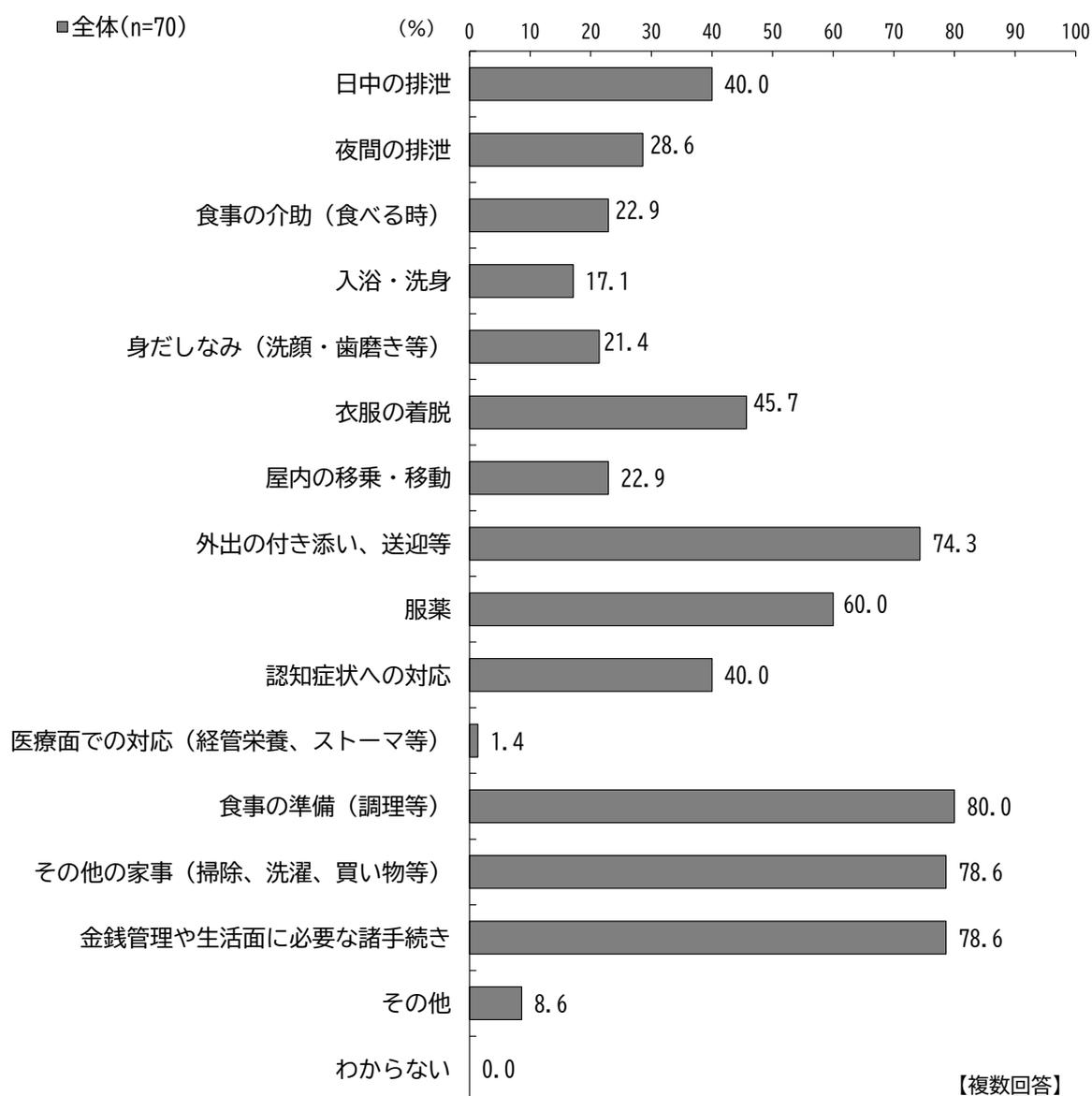
(4) 主な介護者が行っている介護

設問 A 票問6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください

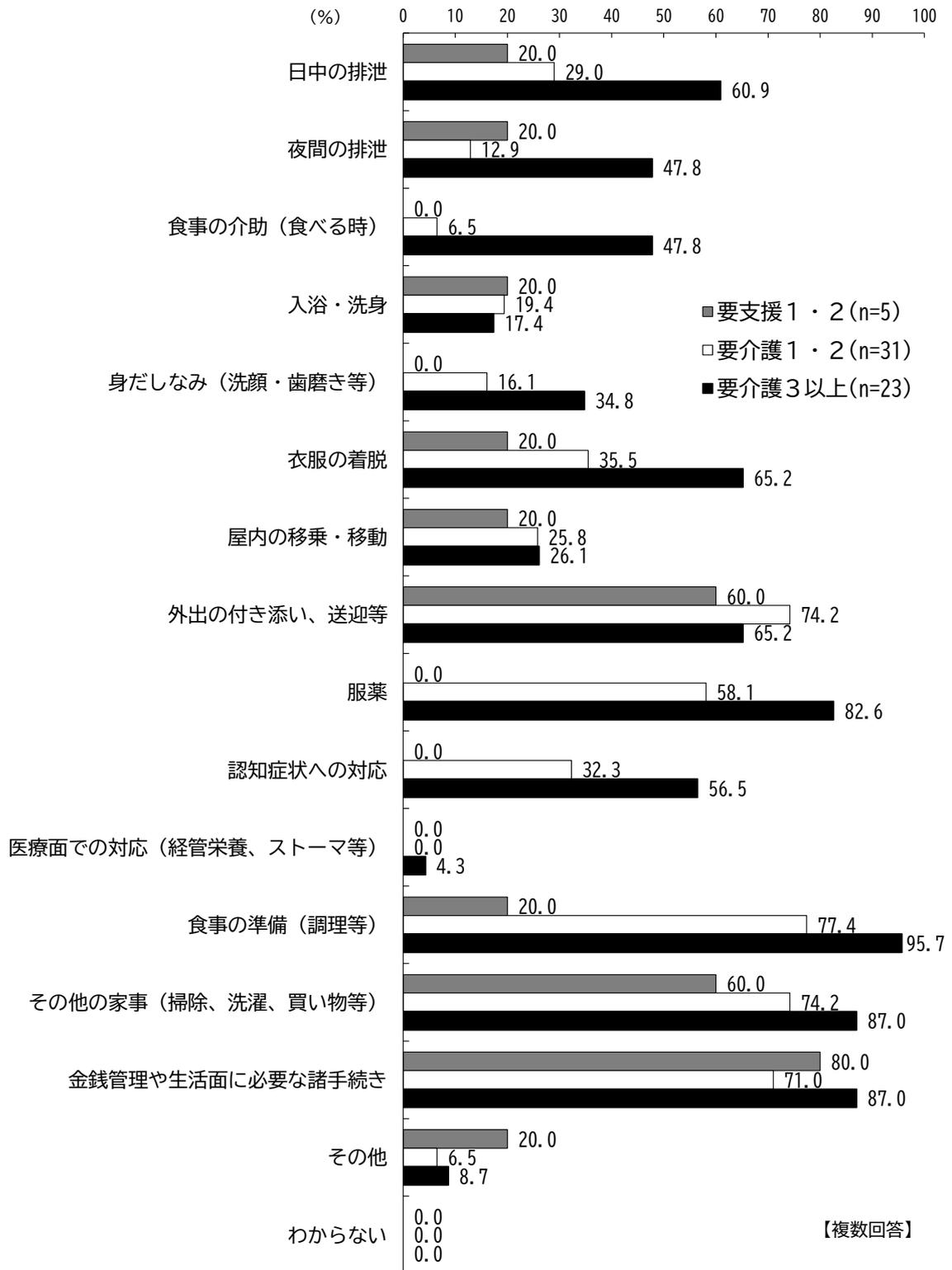
主な介護者が行っている介護については、「食事の準備（調理等）」（80.0%）が最も多く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」及び「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（同率 78.6%）、「外出の付き添い、送迎等」（74.3%）が続きます。

要介護度別でみると、要介護3以上では1人で日常生活を営むことが困難になり、全面的な介護が必要となることがうかがえます。

主な介護者が行っている介護（全体）



主な介護者が行っている介護（要介護度別）



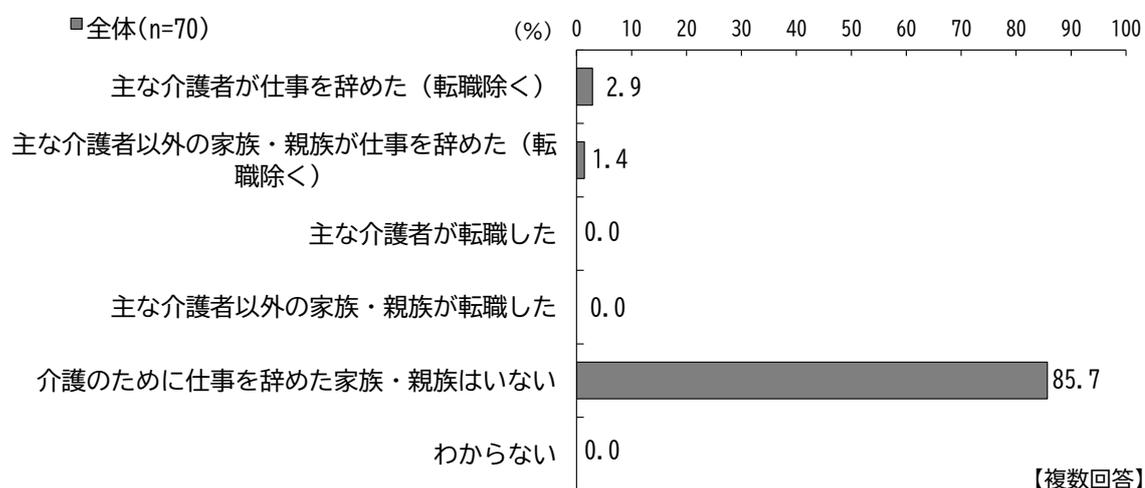
(5) 介護のための離職の有無

設問	A票問7 ご家族やご親族の中で、ご本人の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）
----	--

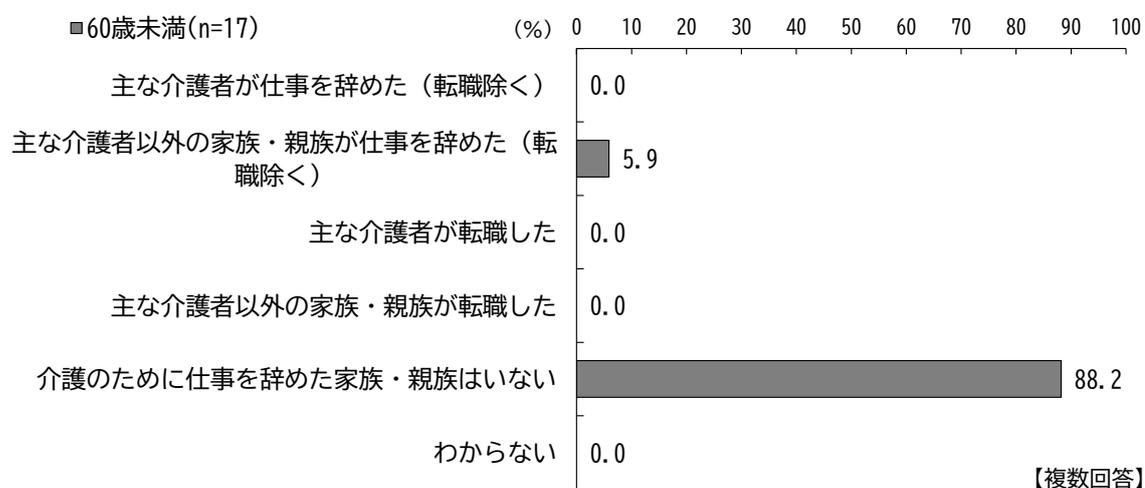
介護のための離職の有無をたずねたところ、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が85.7%を占め、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が2.9%、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」が1.4%となっています。

主な介護者の年齢別で60歳未満の傾向をみると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が88.2%を占めていますが、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」が5.9%となっています。

介護のための離職の有無（全体）



介護のための離職の有無（主な介護者の年齢別、60歳未満）



(6) 介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況

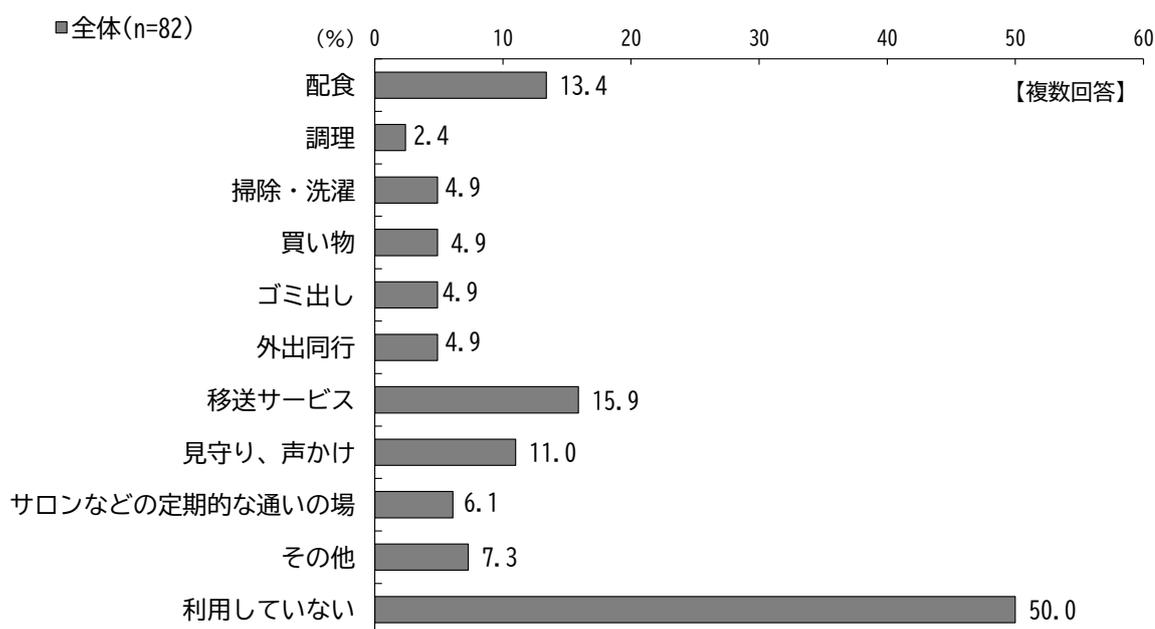
設問	A票問8 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください
----	---

介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況については、「利用していない」が50.0%と半数を占めますが、利用している具体的なサービスとしては「移送サービス」が15.9%で最も多く、次いで「配食」(13.4%)、「見守り、声かけ」(11.0%)が続きます。

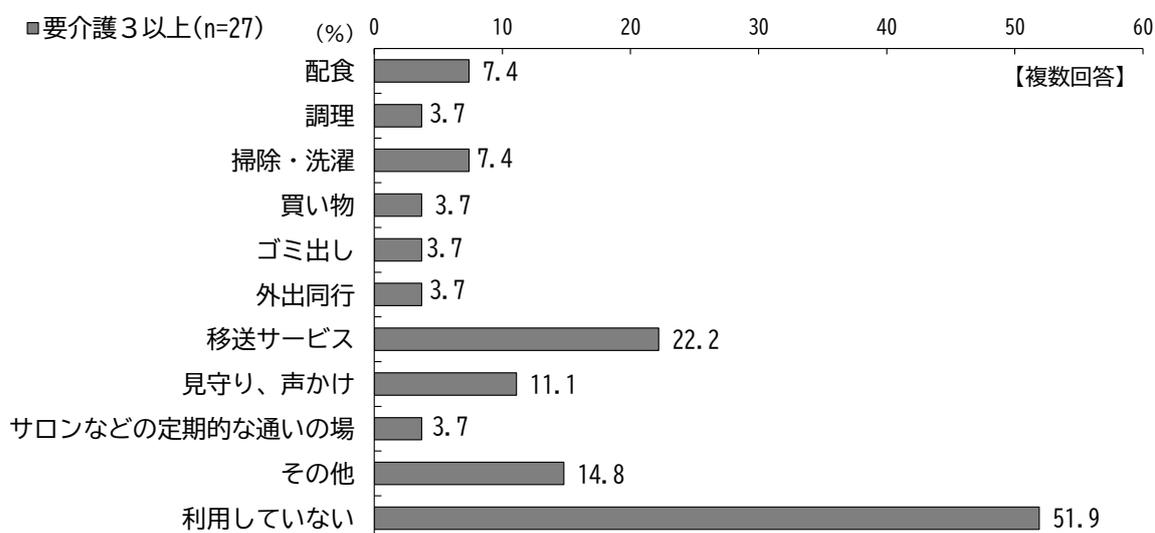
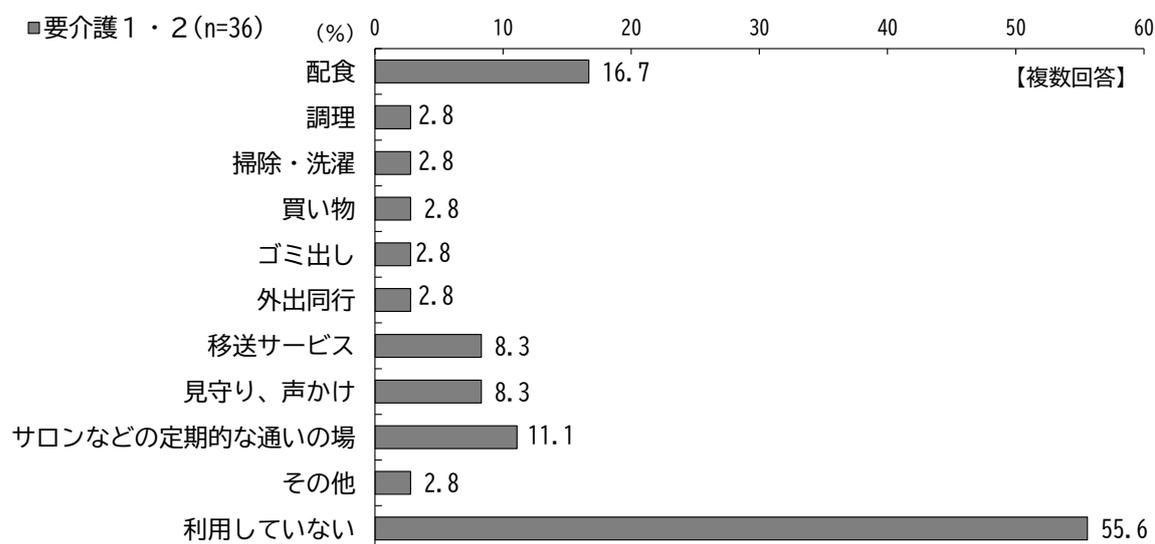
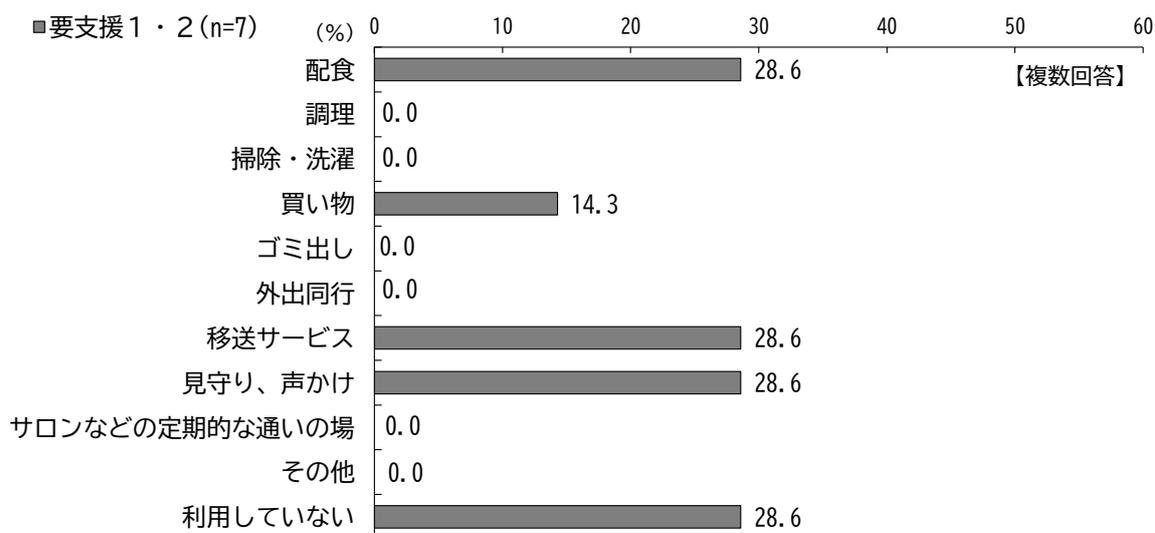
要介護度別で見ると、要支援1・2では「利用していない」が28.6%にとどまり、「配食」、「移送サービス」及び「見守り、声かけ」と回答する割合がそれぞれ28.6%となっているなど、サービスを比較的に利用していることがうかがえます。

世帯類型別で見ると、単身世帯で各種支援・サービスを利用している傾向がみられ、「配食」が44.4%と最も多く、次いで「移送サービス」及び「見守り、声かけ」(同率22.2%)、「買い物」(16.7%)が続きます。

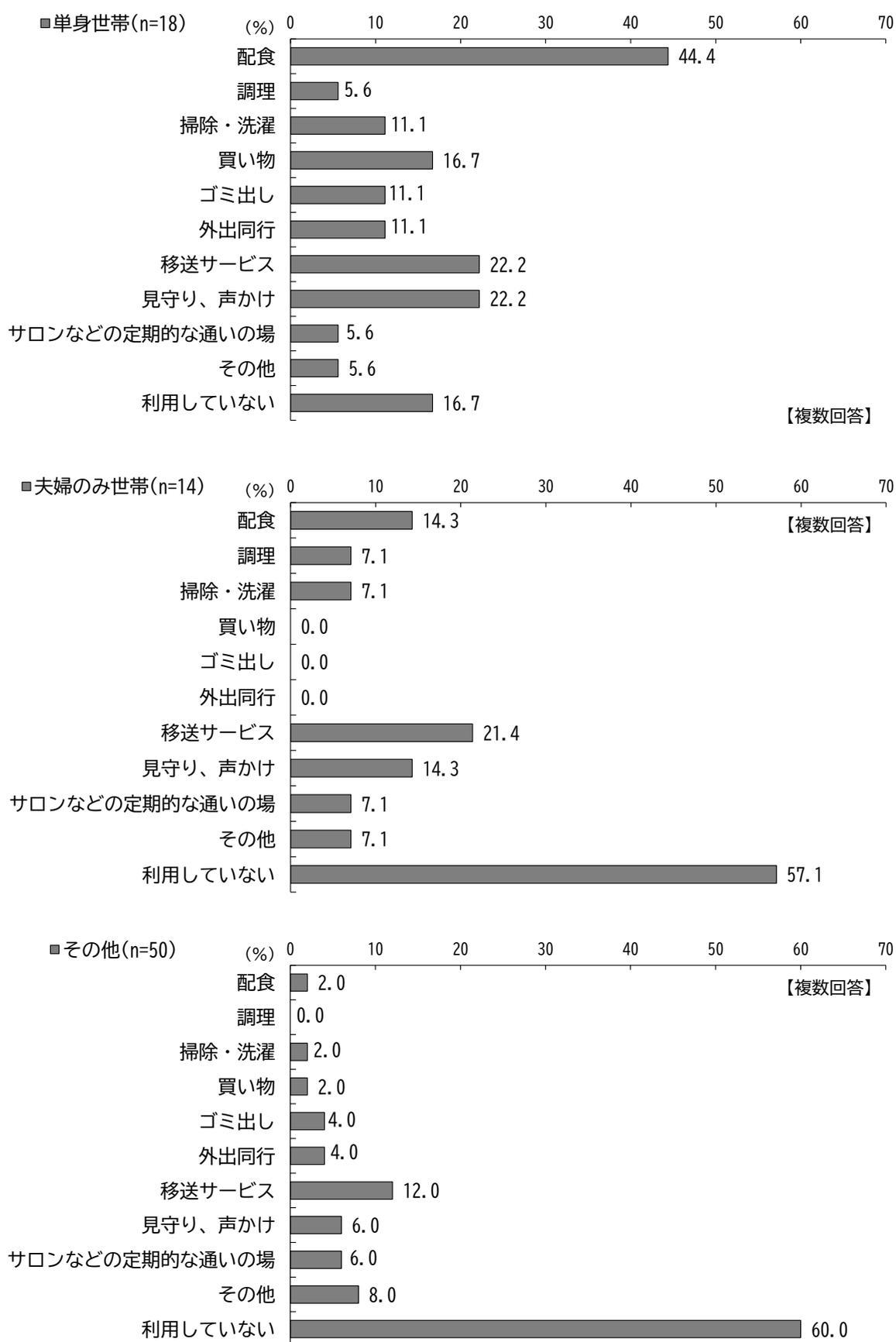
介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況（全体）



介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況（要介護度別）



介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況（世帯類型別）



(7) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

設問	A票問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください
----	--

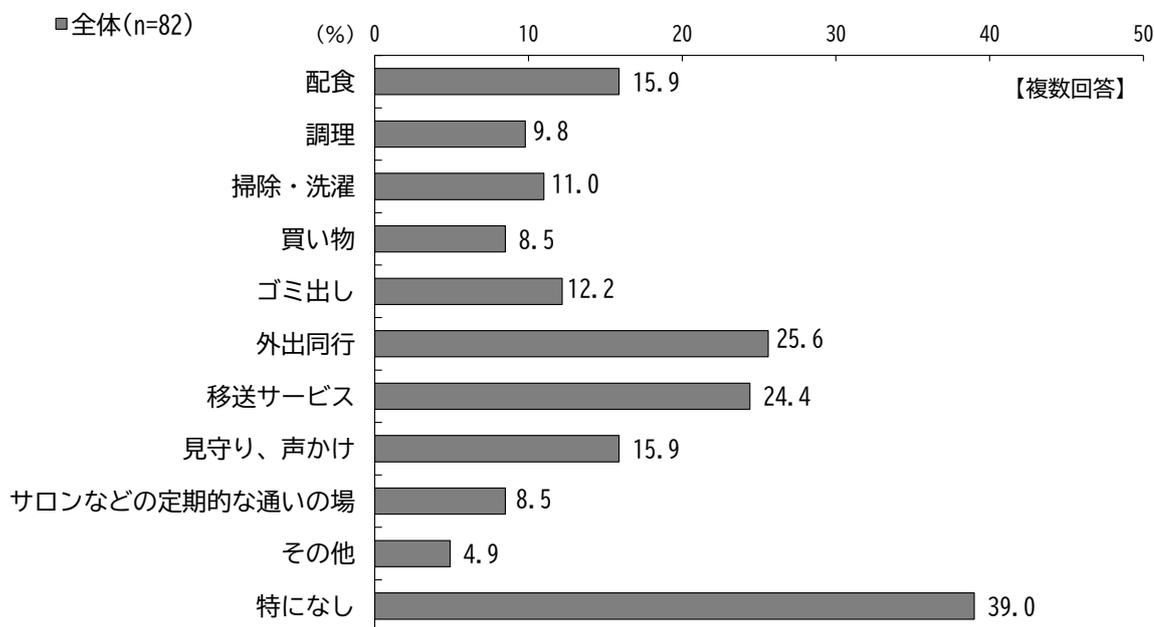
在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービスについては、「特になし」が39.0%と約4割を占めますが、必要とする具体的なサービスは「外出同行」(25.6%)、「移送サービス」(24.4%)が上位を占め、移動手段への要望が強いことがうかがえます。

要介護度別でみると、要支援1・2では「外出同行」(42.9%)、要介護1・2では「配食」(25.0%)と回答する割合が比較的多くなっています。

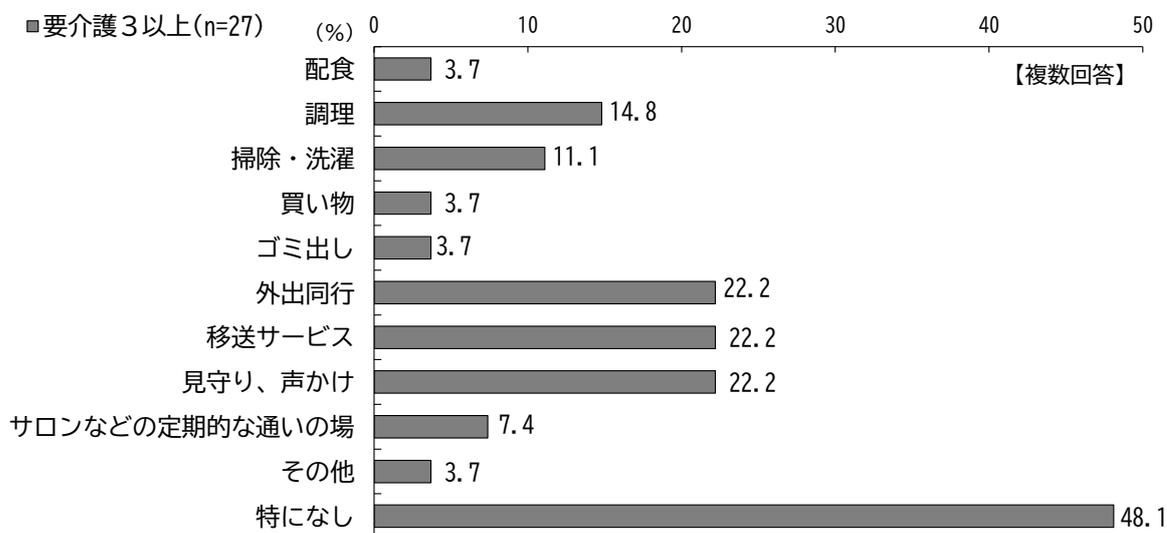
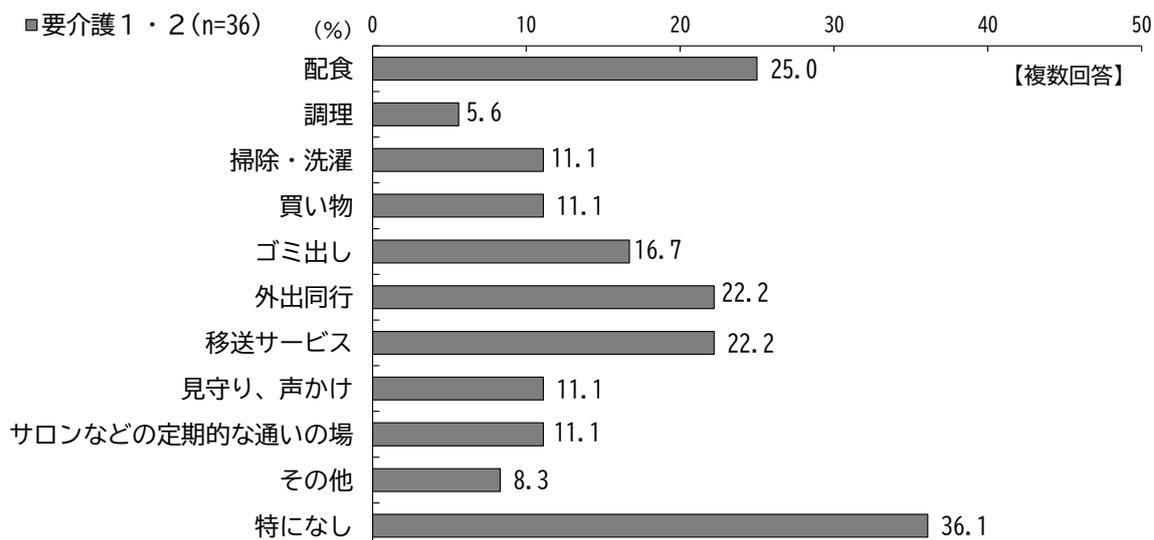
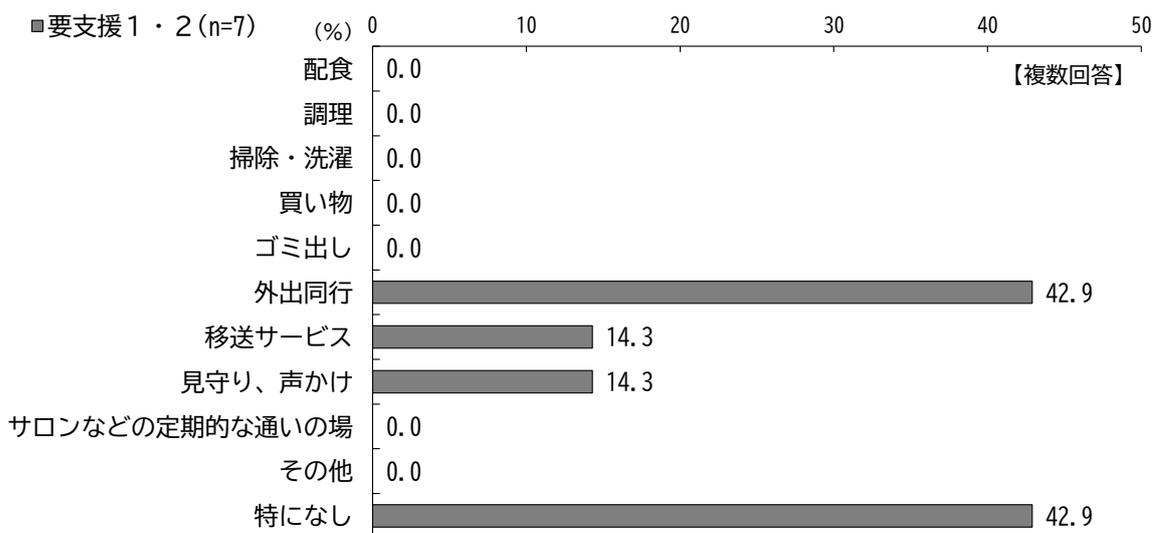
世帯類型別でみると、単身世帯では「ごみ出し」(「外出同行」と同率27.8%)と回答する割合が比較的多くなっています。また、夫婦世帯では「特になし」が21.4%にとどまり、「外出同行」及び「移送サービス」(同率42.9%)がそれぞれ4割を超えるなど、各種支援・サービスへの充実要望が強い傾向がみられます。

認知症自立度別で具体的なサービス要望みると、自立+Ⅰでは「外出同行」及び「移送サービス」(30.0%)、Ⅱでは「外出同行」(25.7%)、Ⅲ以上では「外出同行」及び「見守り、声かけ」(同率24.1%)が上位に挙げられています。

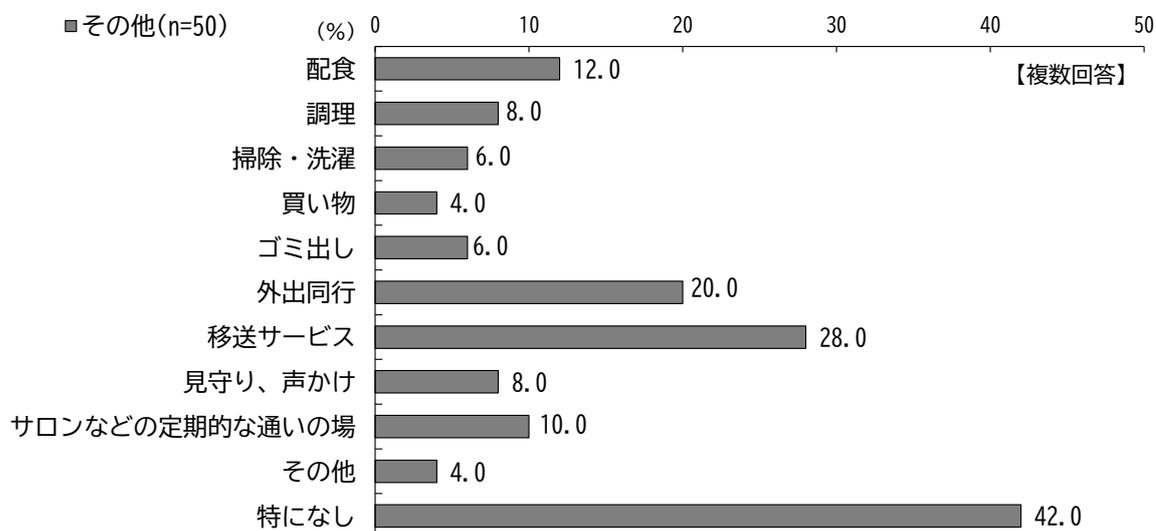
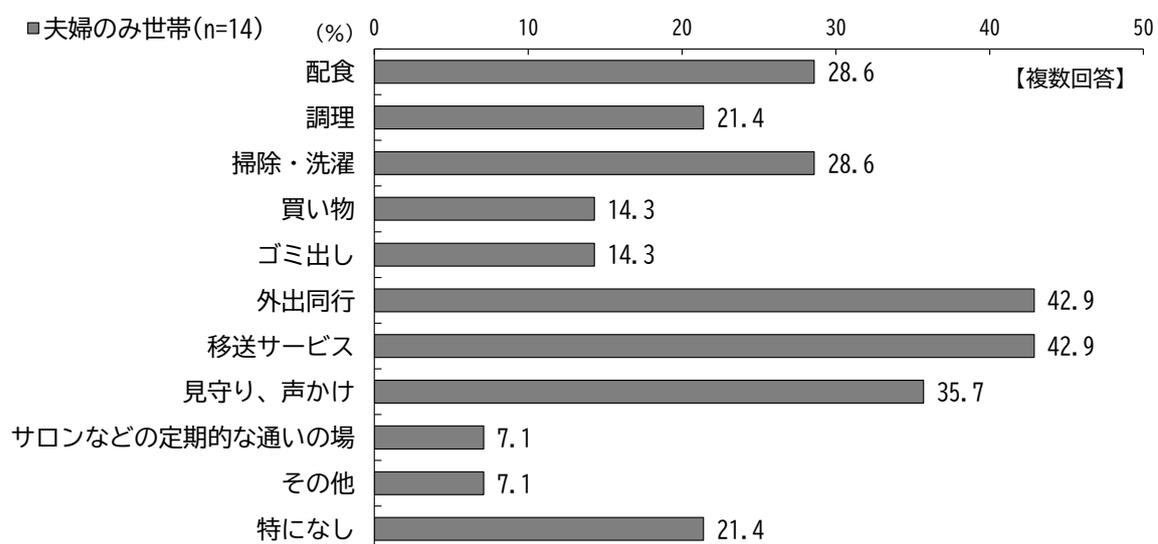
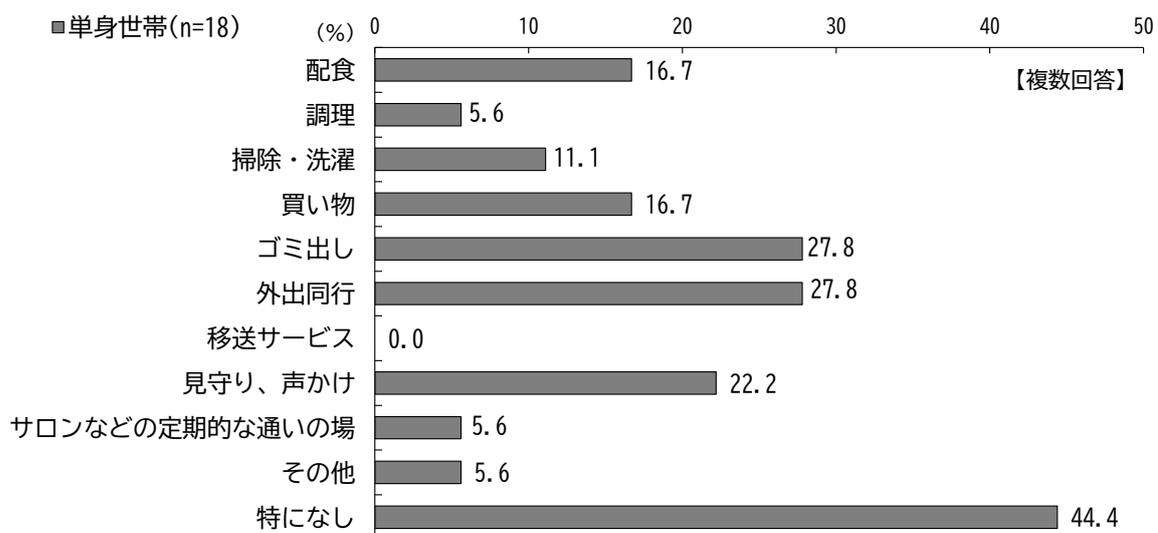
在宅生活の継続のために充実が必要なサービス（全体）



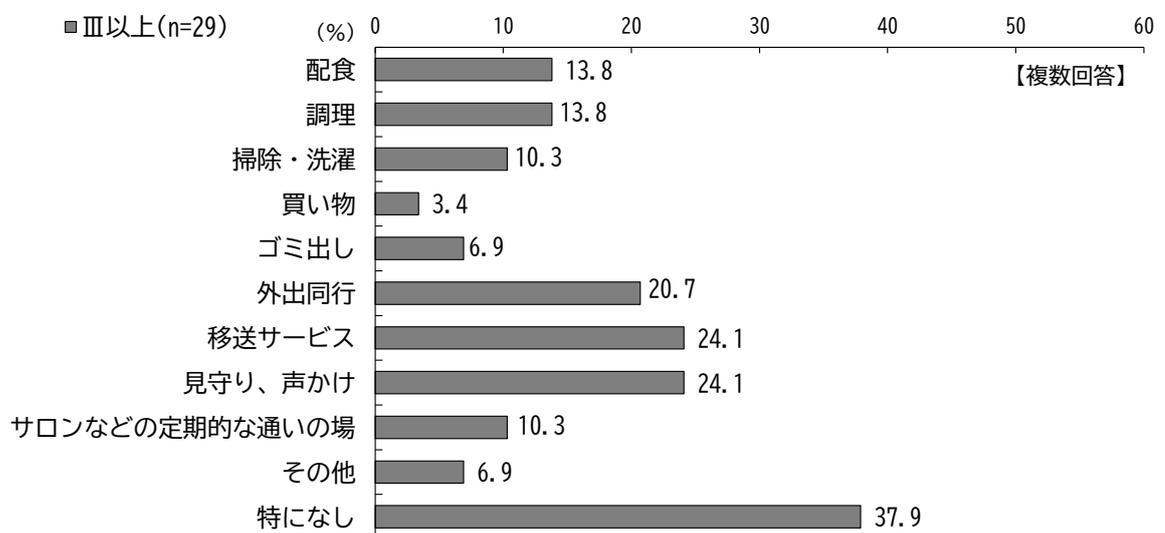
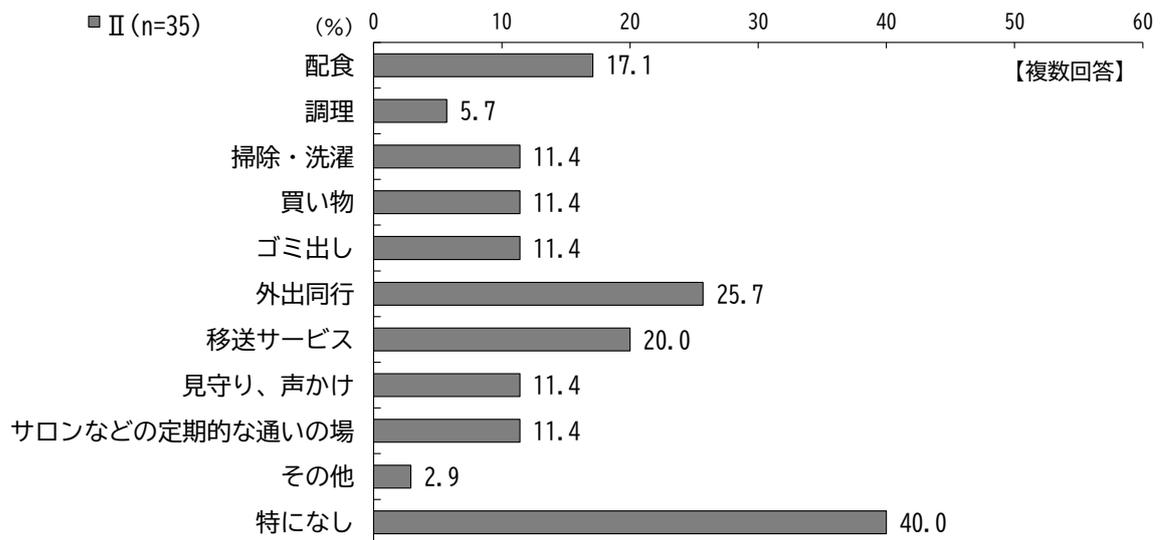
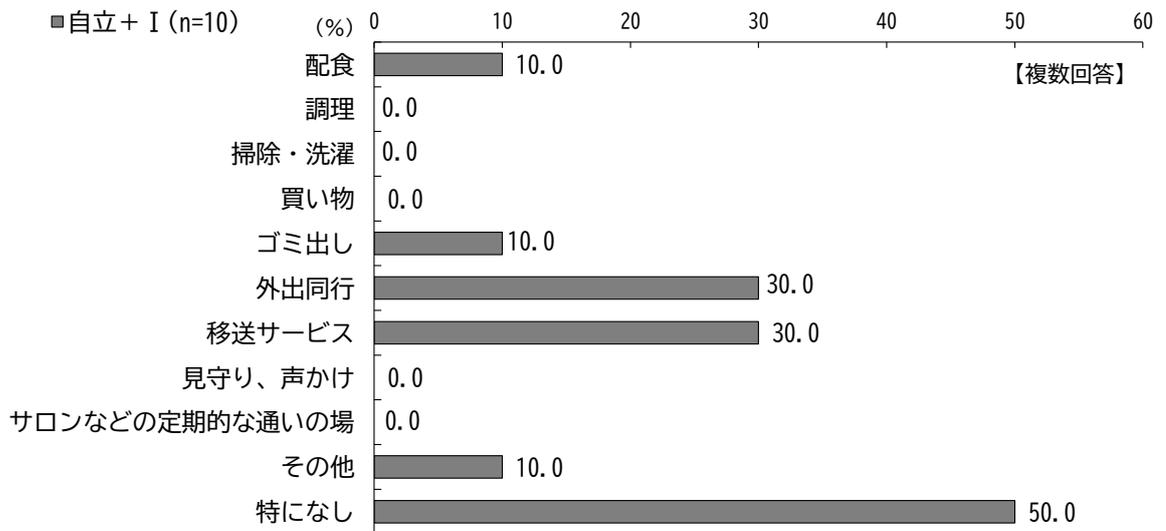
在宅生活の継続のために充実が必要なサービス（要介護度別）



在宅生活の継続のために充実が必要なサービス（世帯類型別）



在宅生活の継続のために充実が必要なサービス（認知症自立度別）



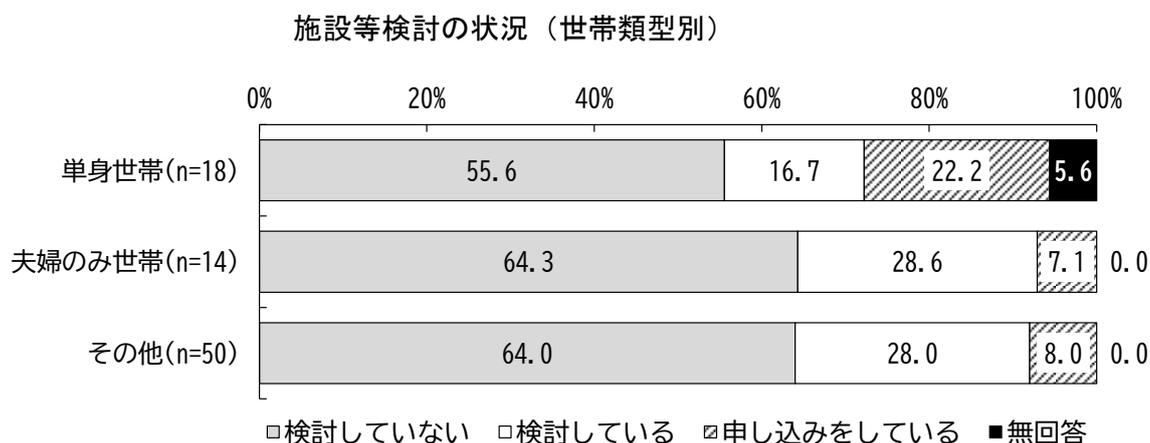
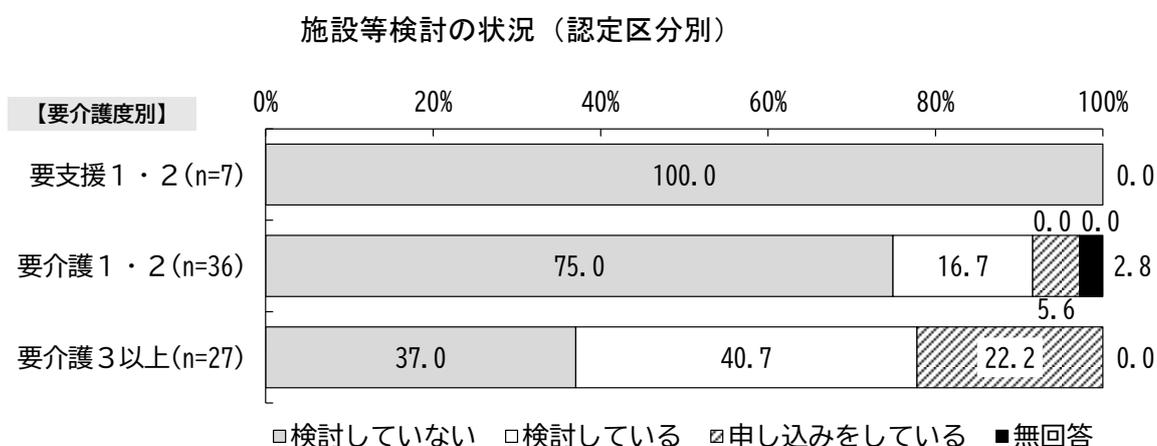
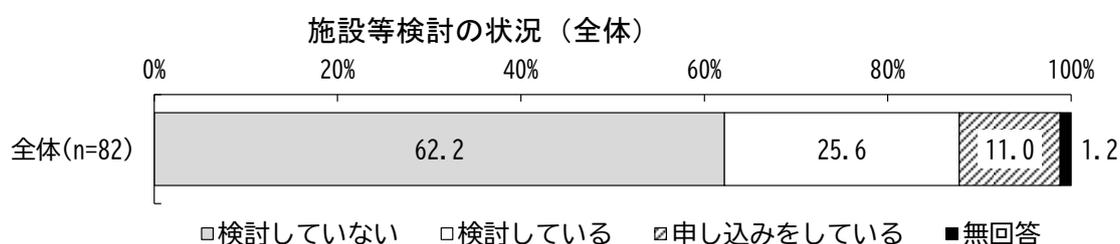
(8) 施設等検討の状況

設問	A票問 10 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください
----	--

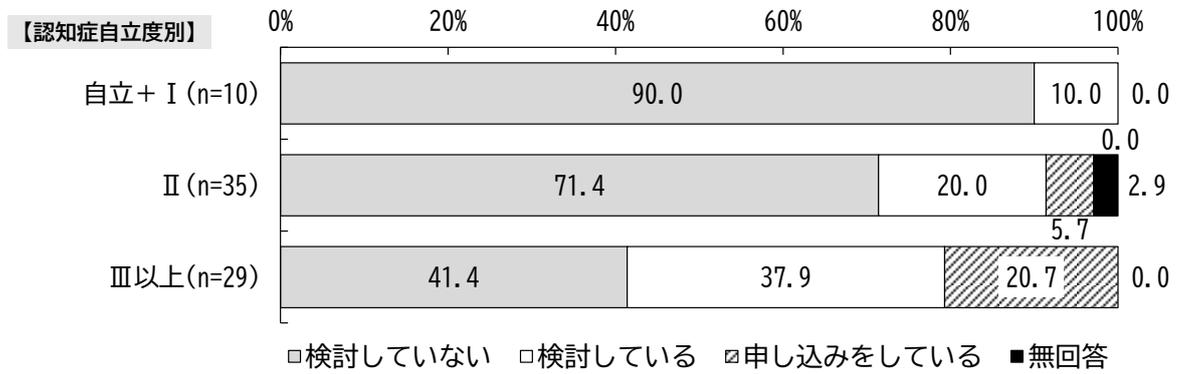
施設等検討の状況については、「検討していない」が62.2%と約6割を占めていますが、認定区分別でみると、要介護3以上では「検討している」が40.7%、「申し込みをしている」が22.2%となっています。

世帯類型別でみると、単身世帯で「申し込みをしている」が22.2%と最も多くなっています。

認知症自立度別でみると、Ⅲ以上で「申し込みをしている」が20.7%と最も多くなっています。



施設等検討の状況（認知症自立度別）



(9) 本人が抱えている傷病

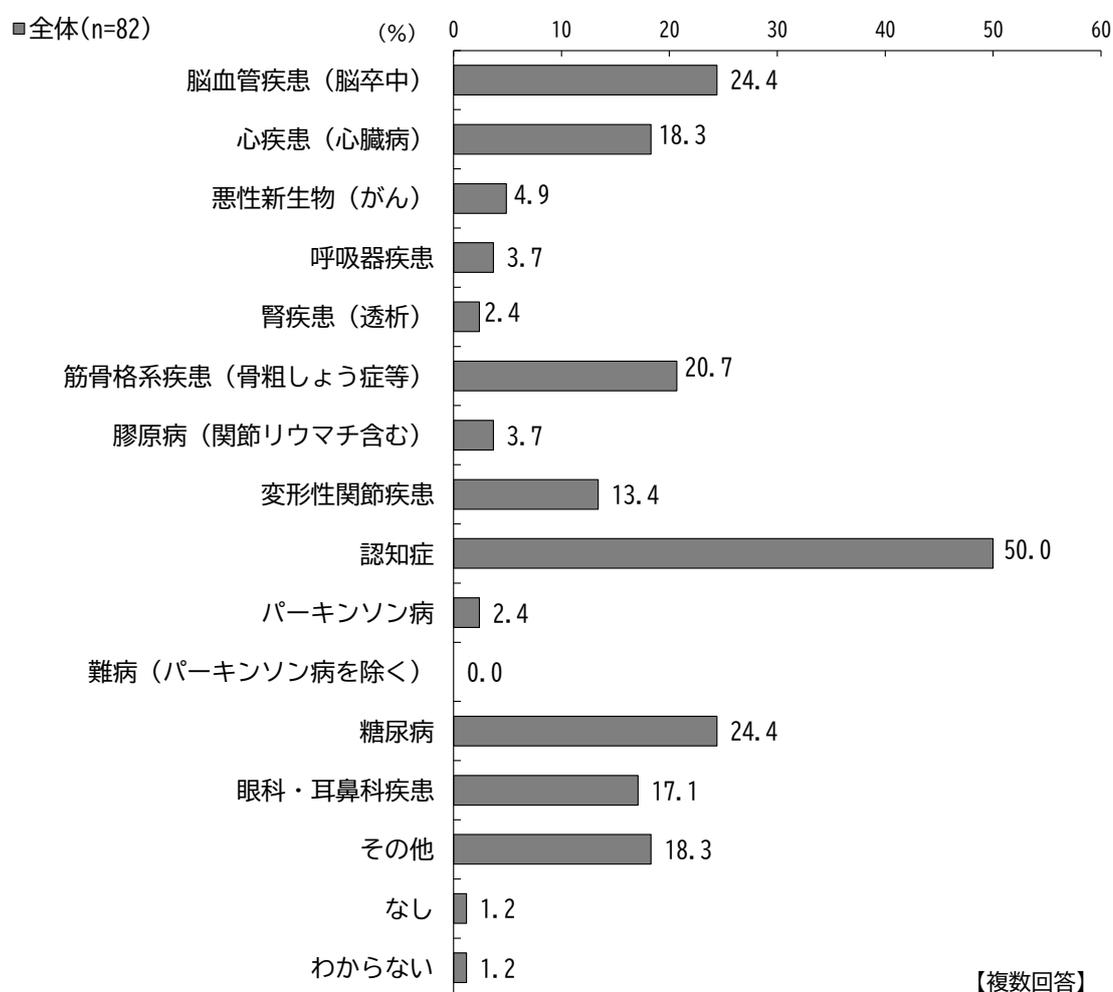
設問 A票問 11 ご本人（あて名の方）が、現在抱えている傷病について、ご回答ください

本人が抱えている傷病については、「認知症」が50.0%で最も多く、次いで「脳血管疾患（脳卒中）」及び「糖尿病」（同率24.4%）が続きます。

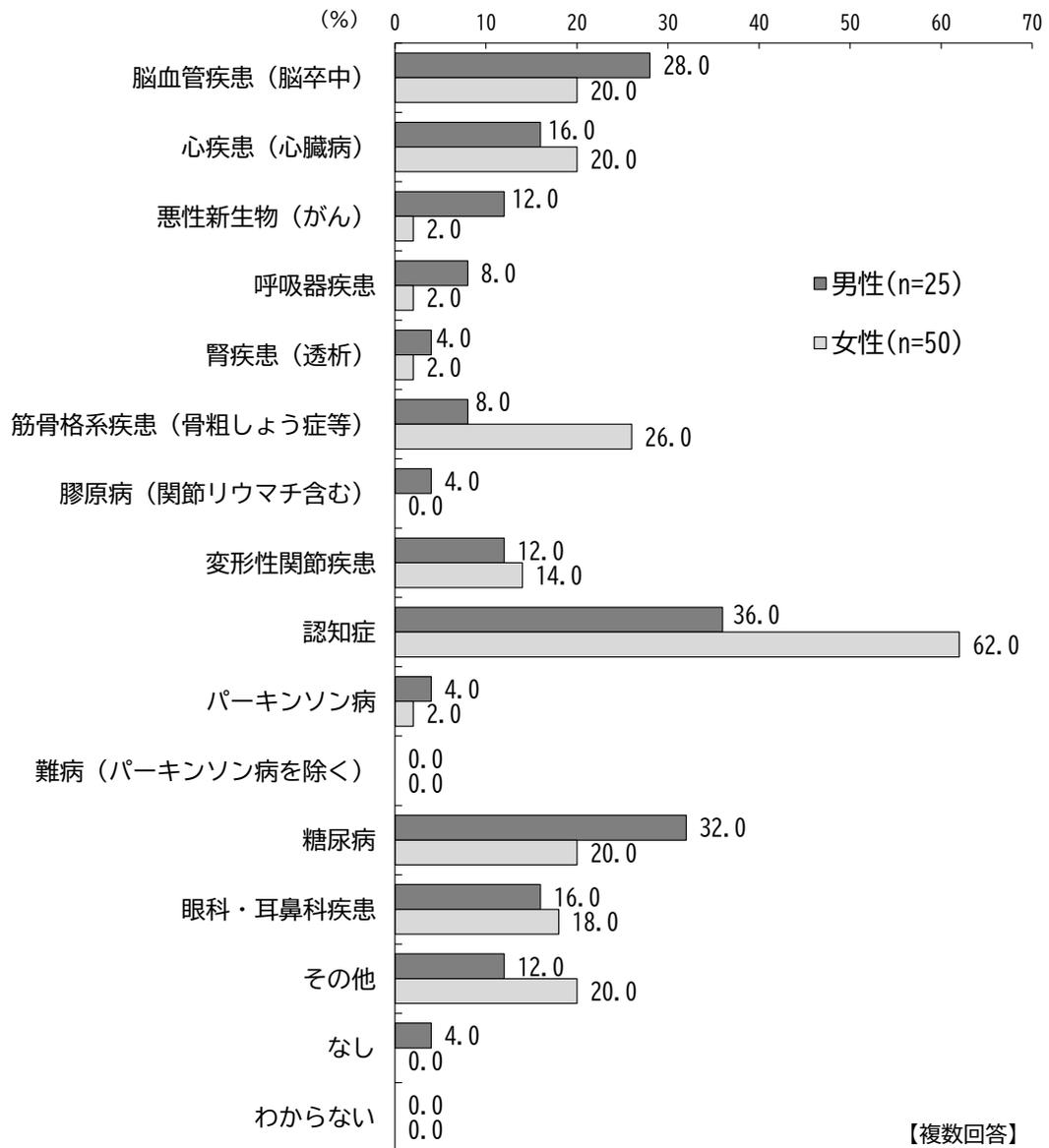
性別でみると、男性・女性ともに「認知症」が最も多く、男性では「糖尿病」（32.0%）、「脳血管疾患（脳卒中）」（28.0%）、女性では「筋骨格系疾患（骨粗しょう症等）」（26.0%）と回答する割合が比較的多くなっています。

要介護度別でみると、要介護度が重くなるにつれて「認知症」と回答する割合が増加し、要介護3以上では66.7%と6割を超えます。

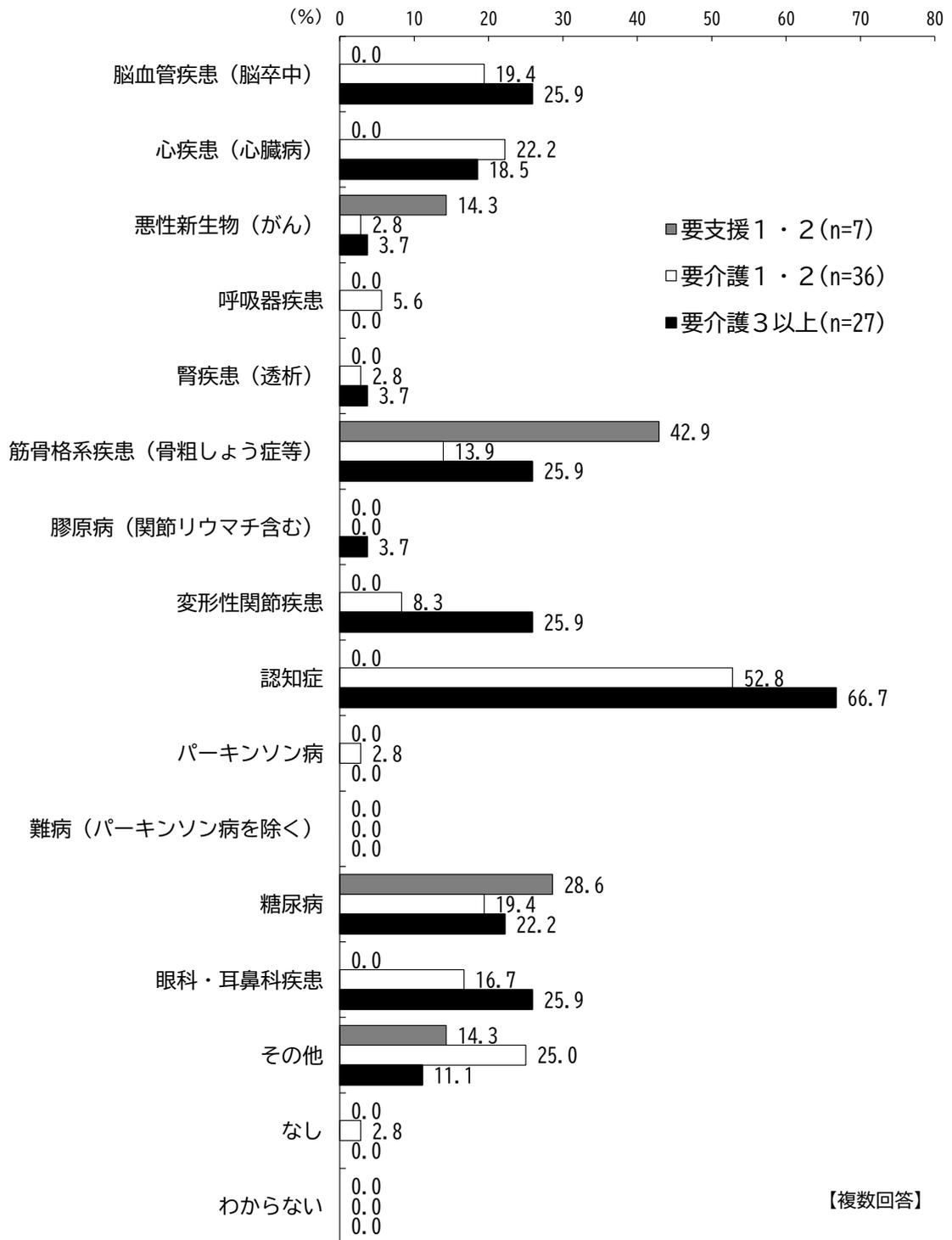
本人が抱えている傷病（全体）



本人が抱えている傷病（性別）



本人が抱えている傷病（要介護度別）



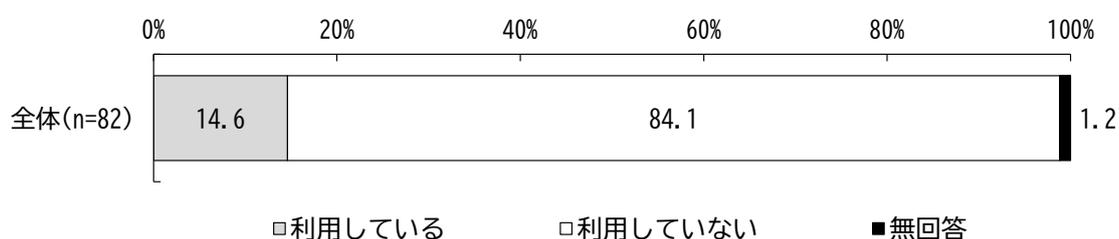
(10) 訪問診療の利用の有無

設問	A票問 12 ご本人（あて名の方）は、現在、訪問診療を利用していますか
----	-------------------------------------

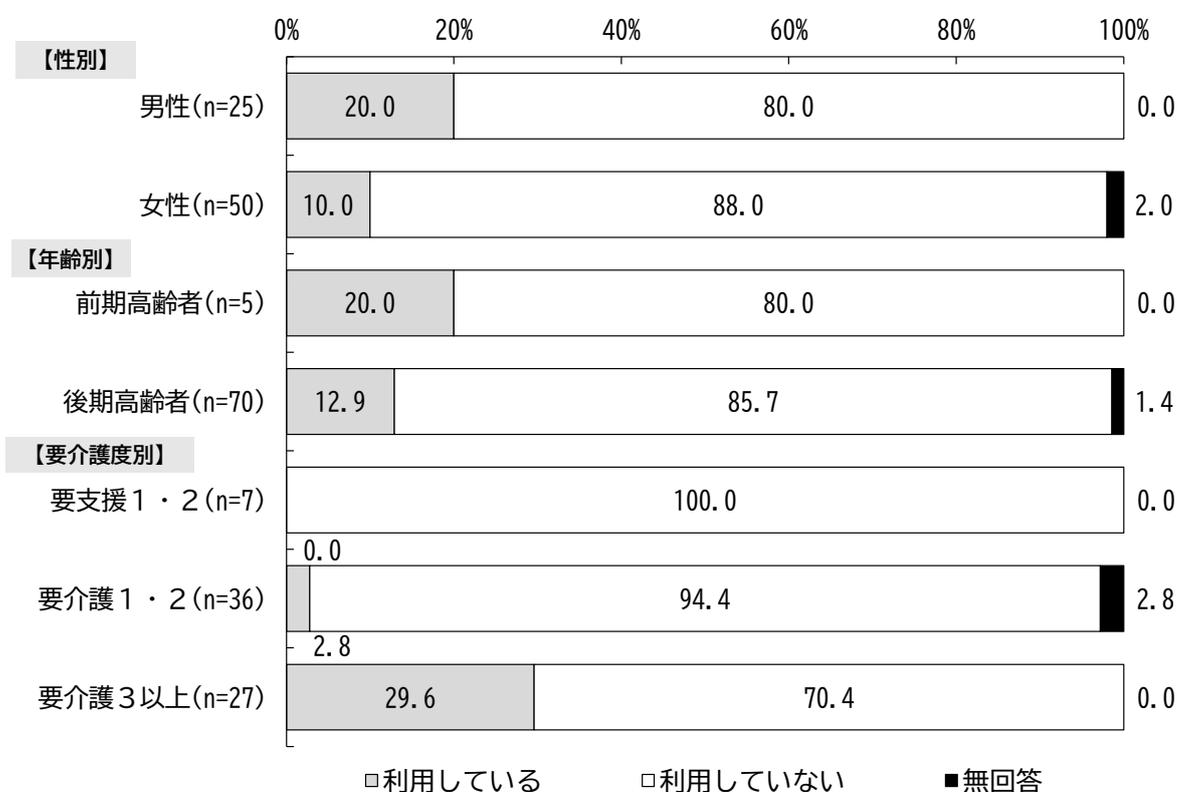
訪問診療の利用の有無については、「利用していない」が84.1%と8割を超え、「利用している」は14.6%にとどまります。

属性別でみると、「利用している」は性別の「男性」(20.0%)、年齢別の「前期高齢者」(20.0%)、要介護度別の「要介護3以上」(29.6%)で比較的多くなっています。

訪問診療の利用の有無（全体）



訪問診療の利用の有無（性別・年齢別・要介護度別）

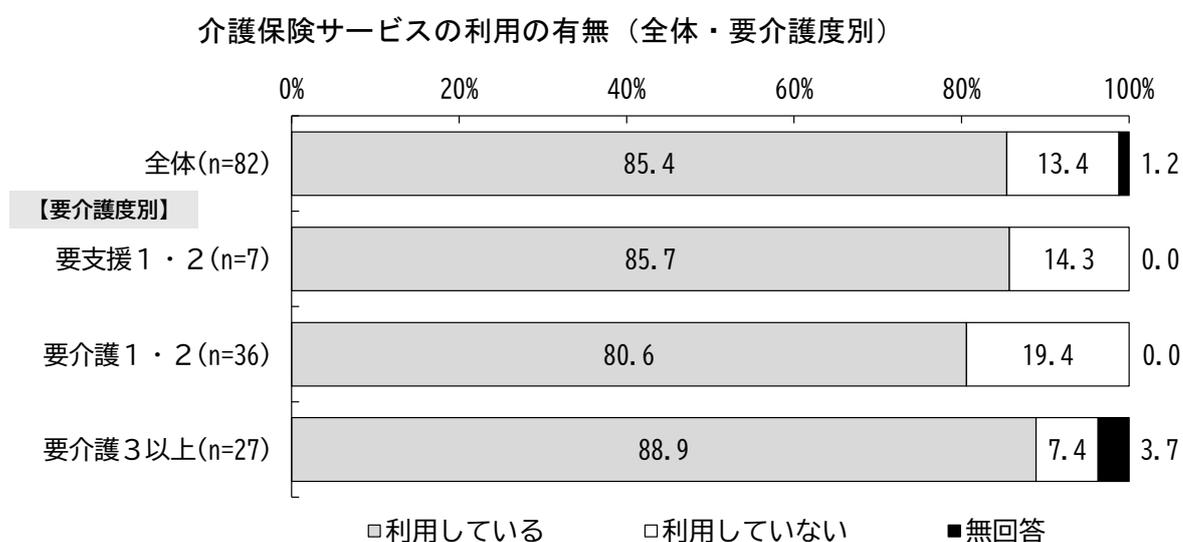


(11) 介護保険サービスについての利用の有無

設問	A票問 13 現在、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の) 介護保険サービスを利用していますか
	A票問 14 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか

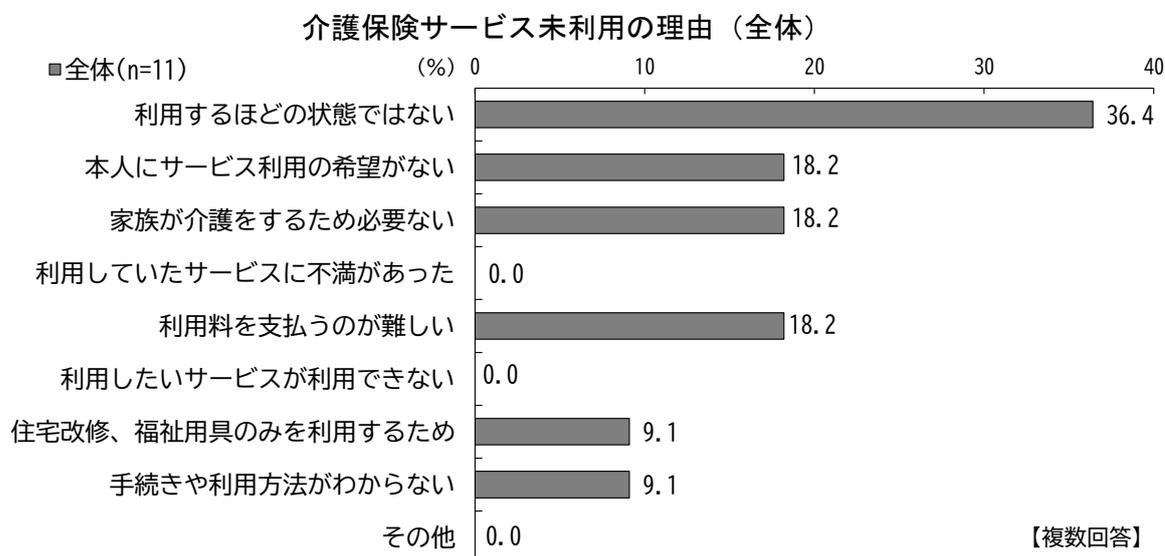
①介護保険サービスの利用の有無

介護保険サービスの利用の有無については、「利用している」が85.4%と8割を超え、要介護度別でみると、要介護3以上で「利用している」(88.9%)が約9割を占めています。



②介護保険サービス未利用の理由

介護保険サービスを「利用していない」と回答した方に、利用していない理由をたずねたところ、「利用するほどの状態ではない」(36.4%)が最も多くなっています。

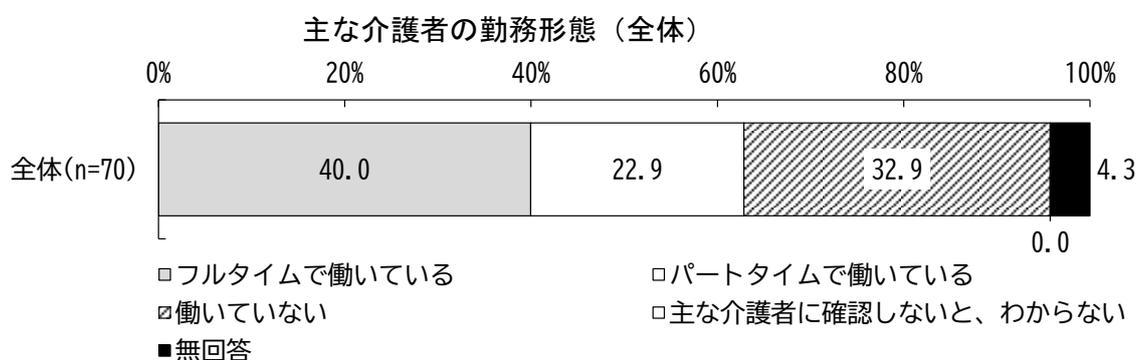


3. 主な介護者に関する調査項目（B票）

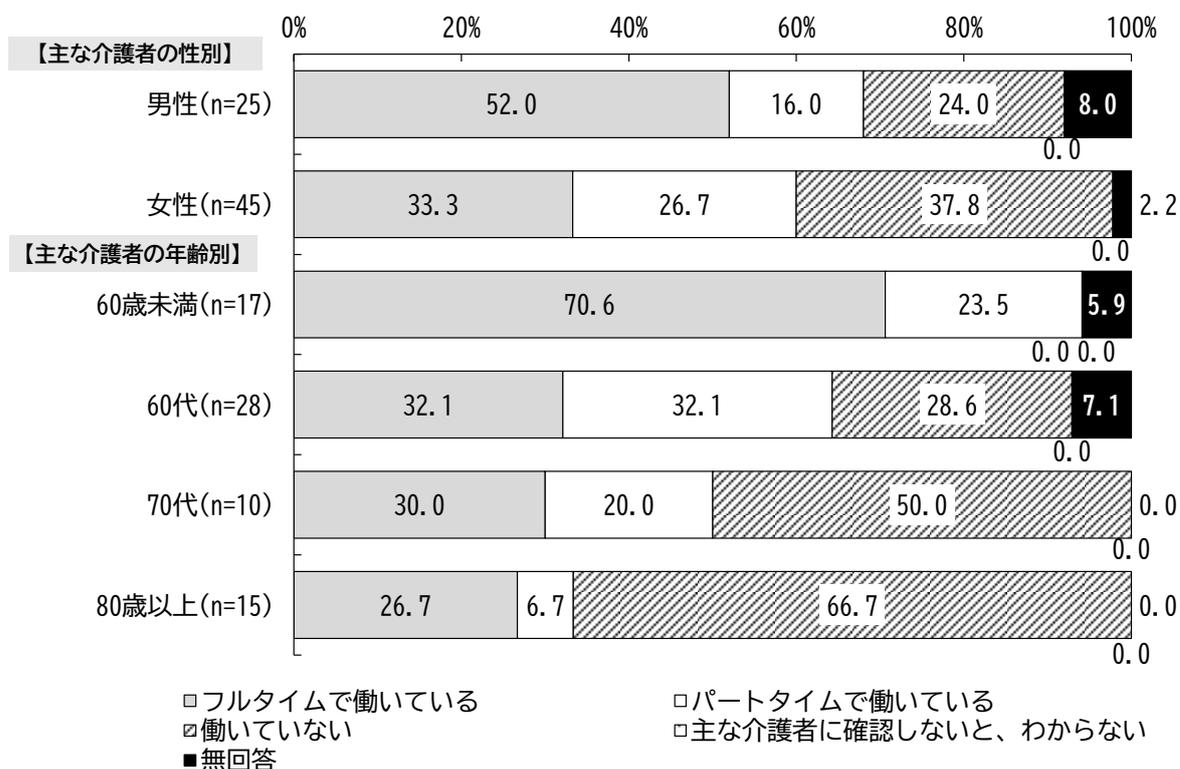
（1）主な介護者の勤務形態

設問 B票問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください

主な介護者の勤務形態については、「フルタイムで働いている」が40.0%、「パートタイムで働いている」が22.9%、「働いていない」は32.9%となっています。主な介護者の性別・年齢別でみると、「フルタイムで働いている」割合は、「男性」(52.0%)、「60歳未満」(70.6%)で多くなっています。



主な介護者の勤務形態（主な介護者の性別・年齢別）



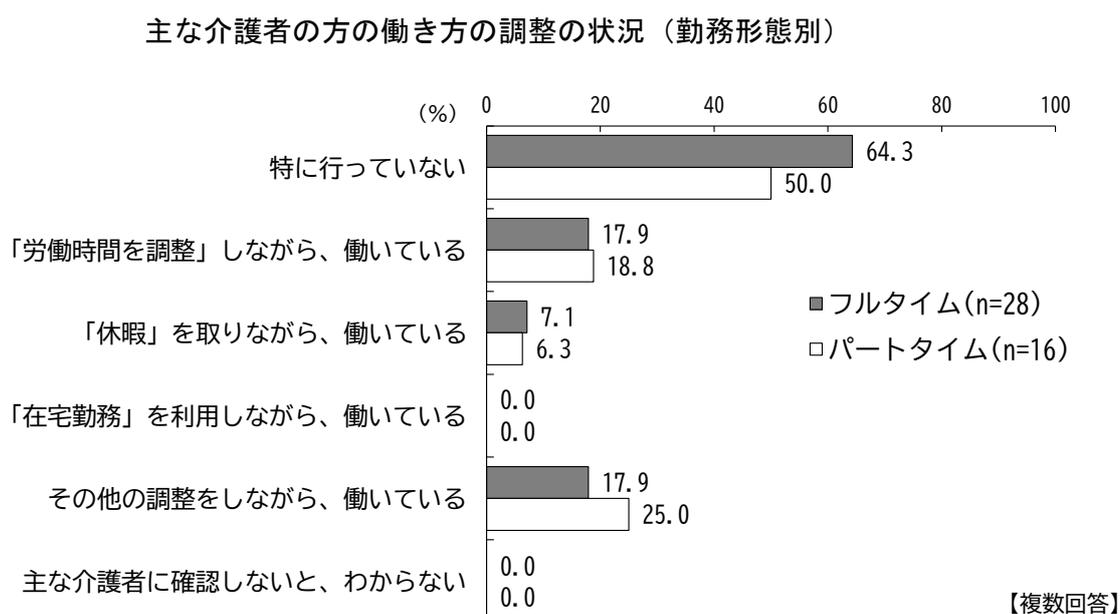
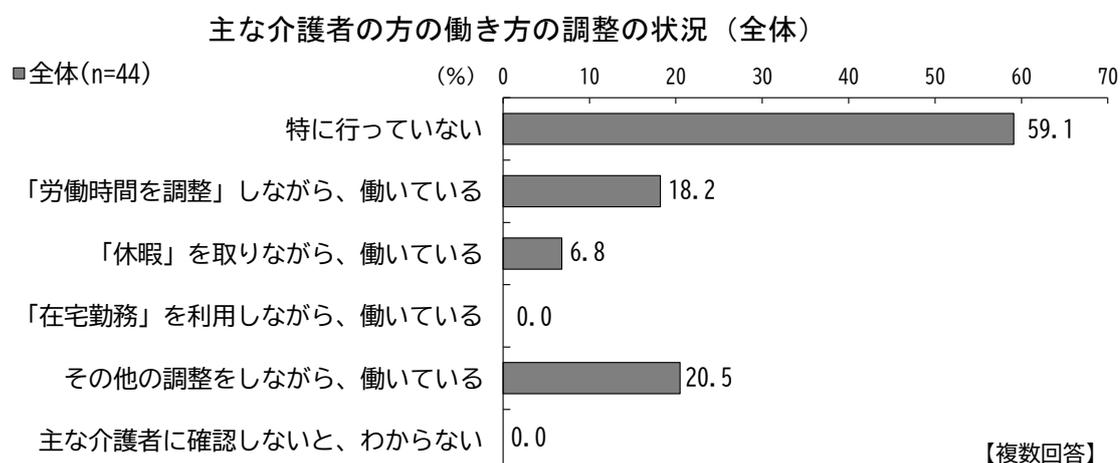
(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

設問	B票問2 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか
----	---

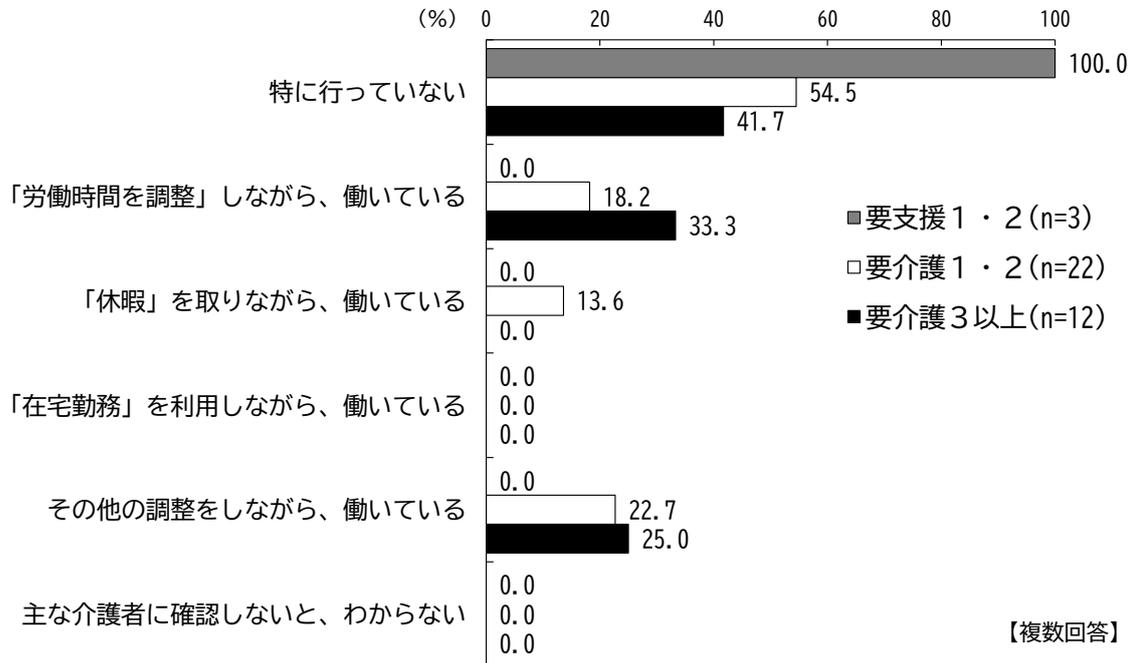
主な介護者の方の働き方の調整の状況については、「特に行っていない」が59.1%と最も多く、次いで「その他の調整をしながら、働いている」(20.5%)が続きます。

勤務形態別でも、「特に行っていない」が最も多くなっています。

要介護度別で見ると、要介護度が重くなるにつれ、「特に行っていない」と回答する割合が減少し、何らかの働き方を調整していることがうかがえ、要介護3以上では短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等の「労働時間を調整」しながら働いている方が約3割となっています。



主な介護者の方の働き方の調整の状況（要介護度別）



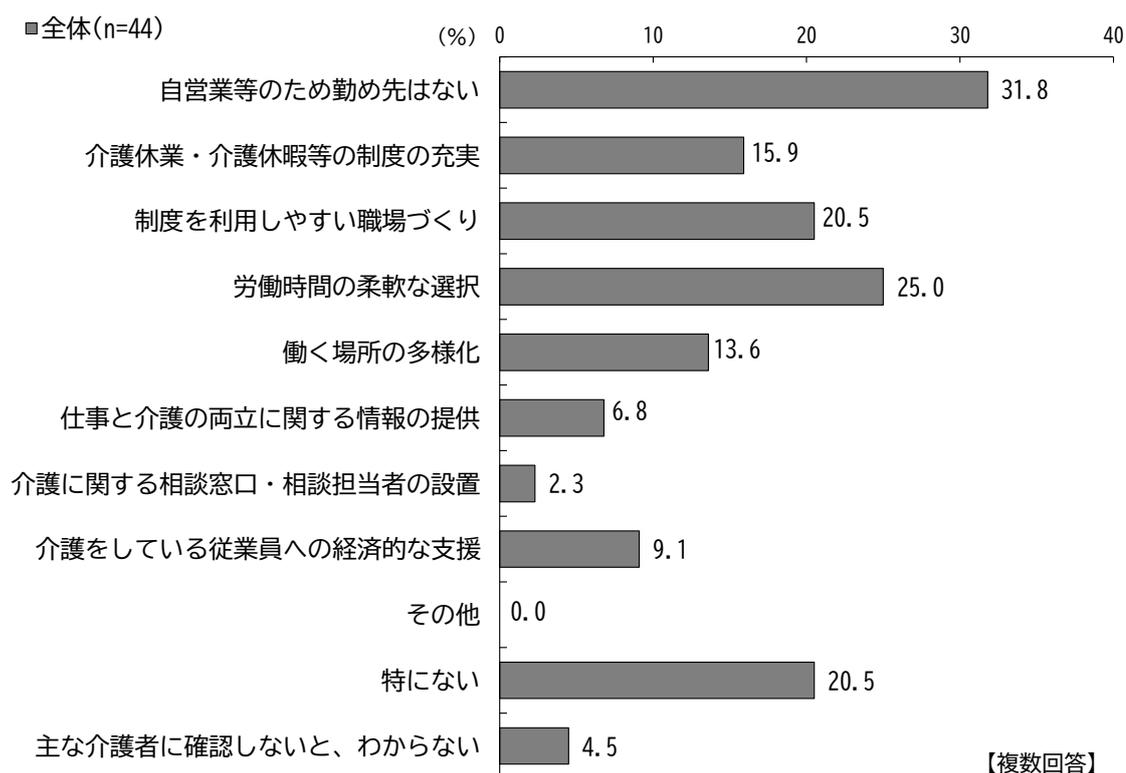
(3) 就労継続に効果的な勤め先からの支援

設問	B票問3 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか
----	---

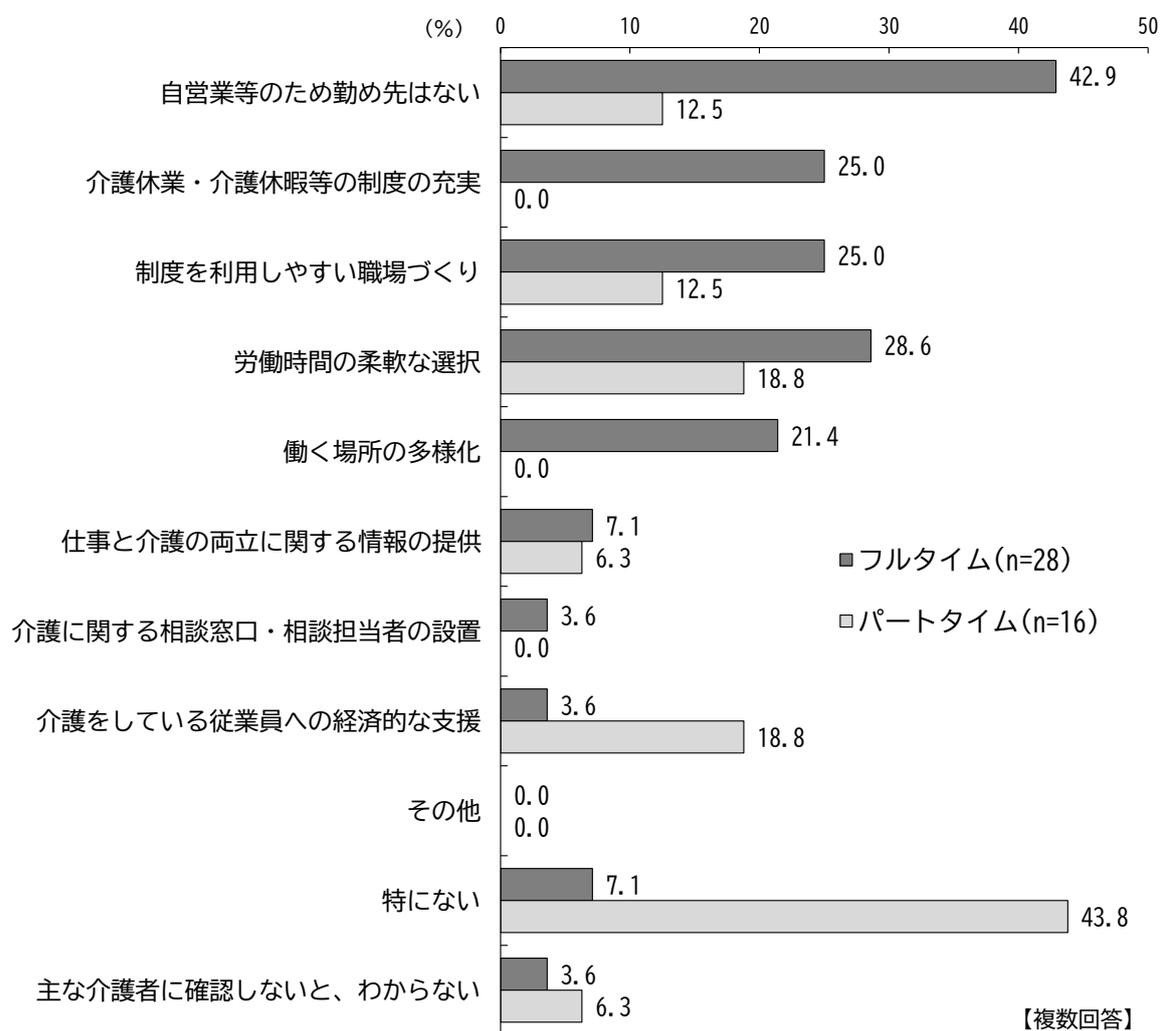
就労継続に効果的な勤め先からの支援については、「自営業等のため勤め先はない」(31.8%)が最も多く、次いで「労働時間の柔軟な選択」(25.0%)、「制度を利用しやすい職場づくり」(20.5%)が続きます。

勤務形態別でみると、フルタイムでは「自営業等のため勤め先はない」(42.9%)、パートタイムでは「特にない」(43.8%)が最も多くなっていますが、具体的な支援ニーズとしては、フルタイムでは「労働時間の柔軟な選択」(28.6%)、パートタイムでは「労働時間の柔軟な選択」及び「介護をしている従業員への経済的な支援」(同率18.8%)などが上位に挙げられています。

就労継続に効果的な勤め先からの支援（全体）



就労継続に効果的な勤め先からの支援（勤務形態別）

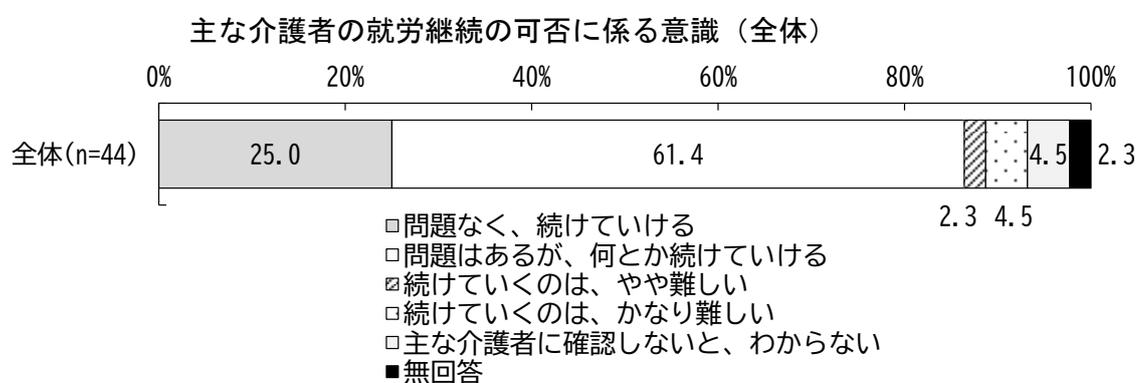


(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

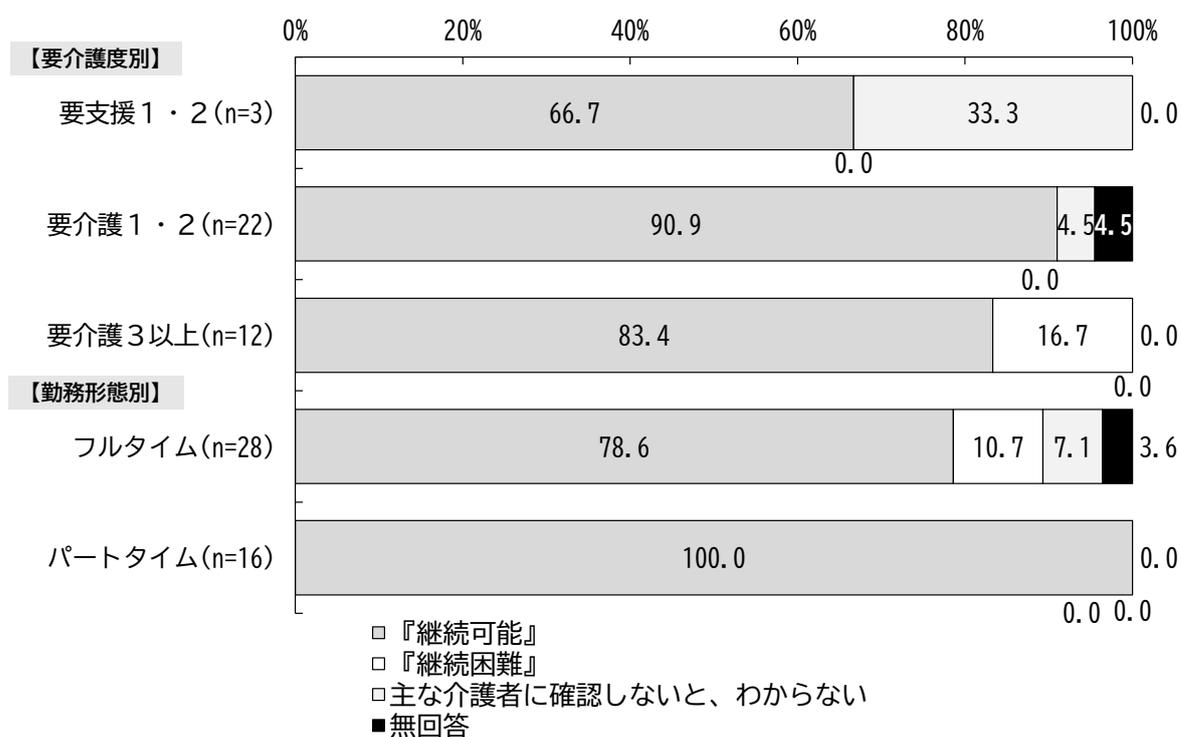
設問	B票問4 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか
----	-------------------------------------

主な介護者の就労継続の可否に係る意識については、「問題はあるが、何とか続けていける」が61.4%と約6割を占め、これに「問題なく、続けていける」(25.0%)をあわせた86.4%が『継続可能』と回答しています。一方、『継続困難』(「続けていくのは、やや難しい」2.3%と「続けていくのは、かなり難しい」4.5%の合計)は6.8%となっています。

『継続困難』と回答した割合をみると、要介護度別の要介護3以上(16.7%)、勤務形態別のフルタイム(10.7%)で比較的多くなっています。



主な介護者の就労継続の可否に係る意識 (要介護度別・勤務形態別)



(5) 主な介護者の介護負担

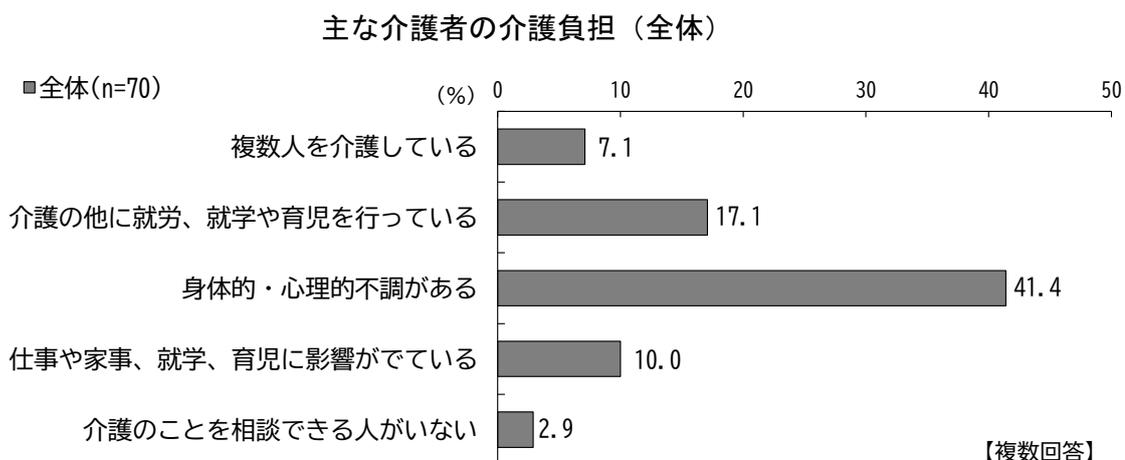
設問	B票問5 主な介護者の介護負担について、以下の項目に当てはまるものがあれば、ご回答ください。
----	--

主な介護者の介護負担については、「身体的・心理的不調がある」が41.4%で最も多く、次いで「介護の他に就労、就学や育児を行っている」(17.1%)、「仕事や家事、就学、育児に影響がでている」(10.0%)が続きます。

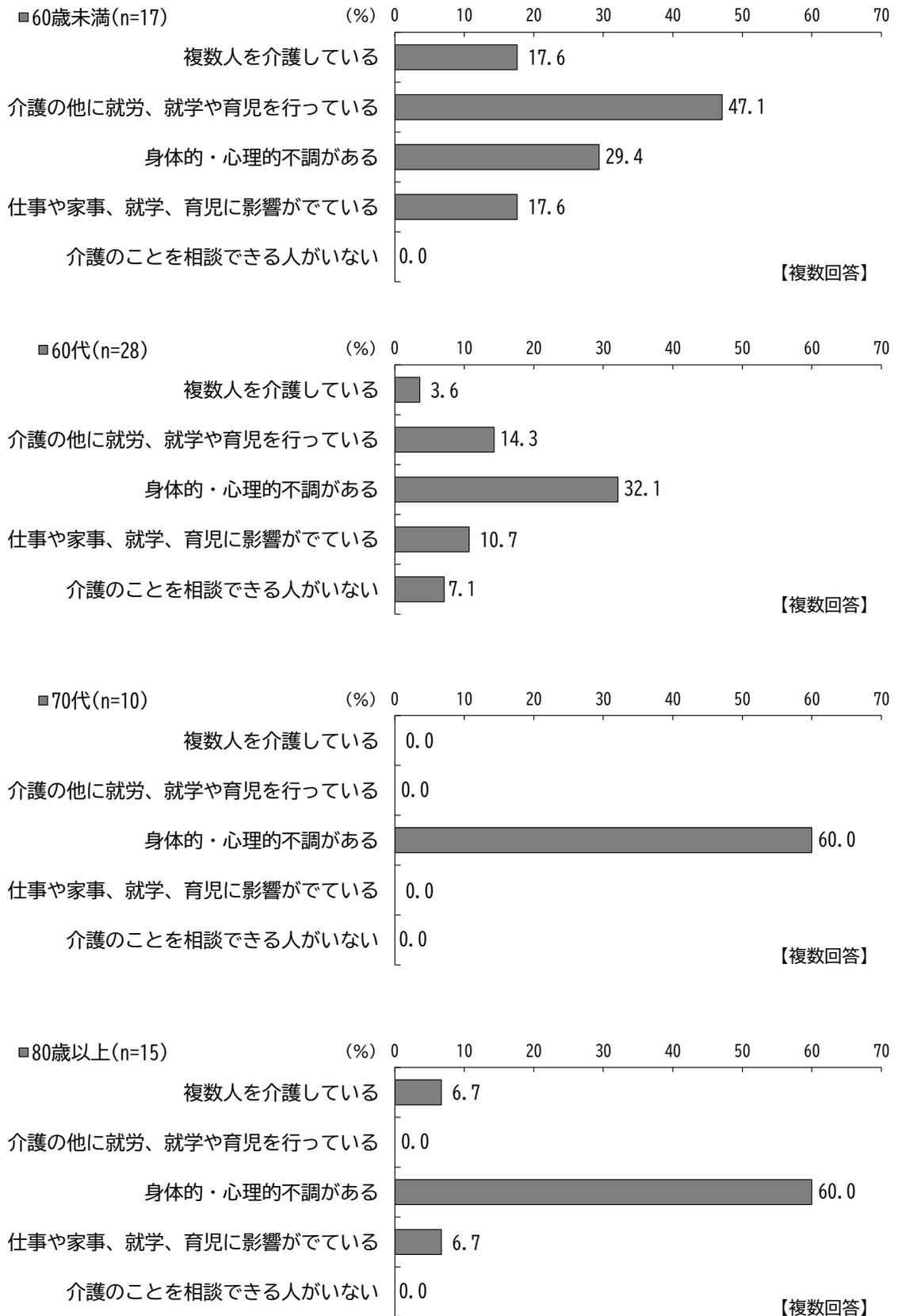
主な介護者の年齢別で見ると、60歳以上の層では「身体的・心理的不調がある」が最も多く、70代、80歳以上では6割を占めています。また、60歳未満では「仕事や家事、就学、育児に影響がでている」(17.6%)と回答する割合が比較的多くなっています。

要介護度別で見ると、要介護度が重くなるにつれ、「身体的・心理的不調がある」と回答する割合が増加し、要介護3以上では65.2%となっています。

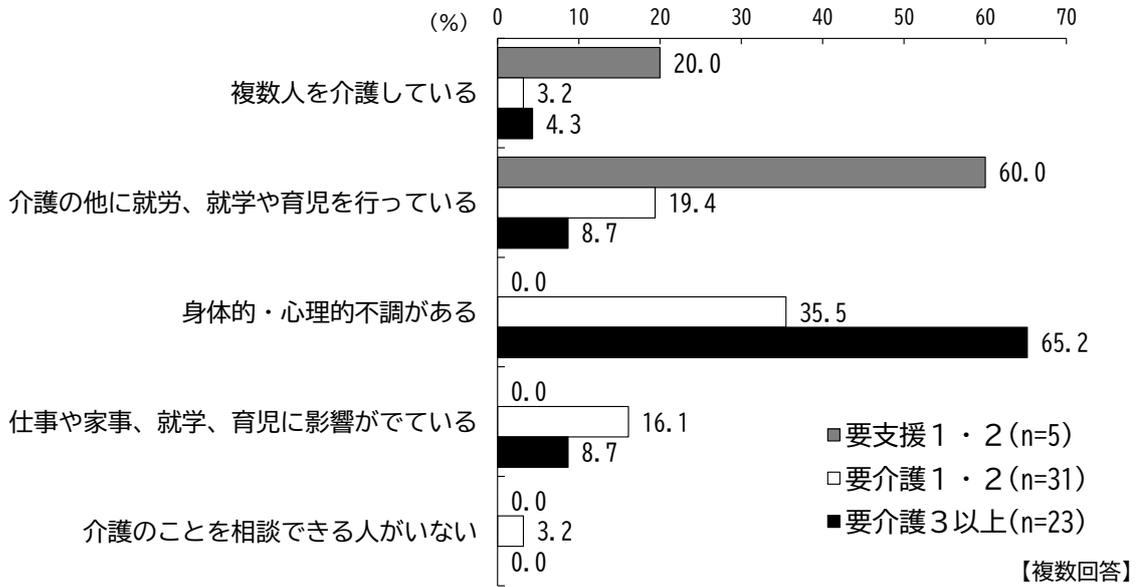
認知症自立度で見ると、Ⅲ以上で「身体的・心理的不調がある」が54.2%となっています。



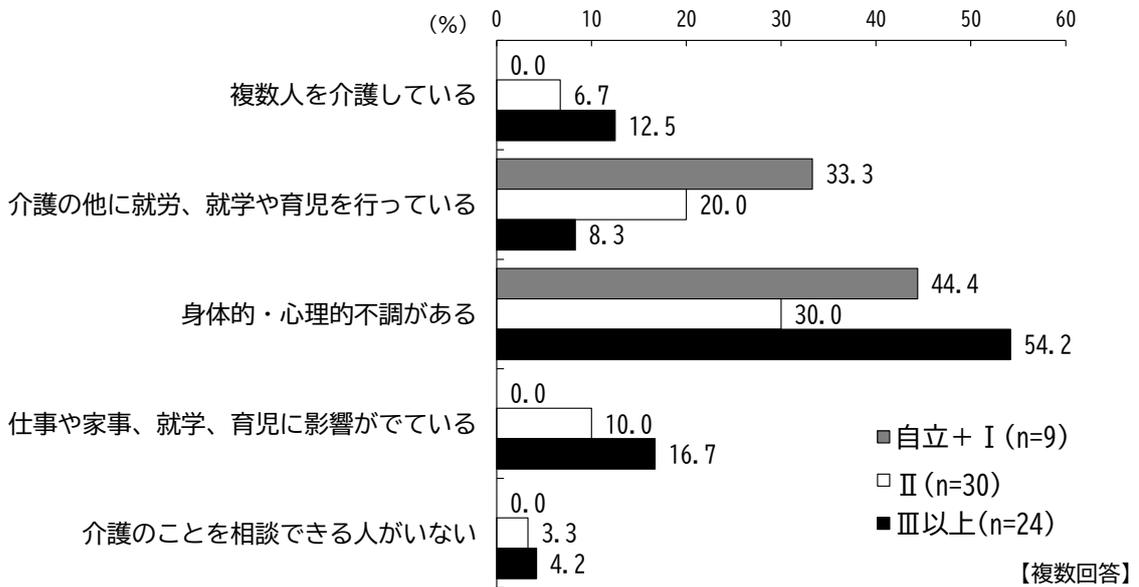
主な介護者の介護負担（主な介護者の年齢別）



主な介護者の介護負担（要介護度別）



主な介護者の介護負担（認知症自立度）



(6) 主な介護者が不安に感じる介護

設問	B票問6 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）
----	---

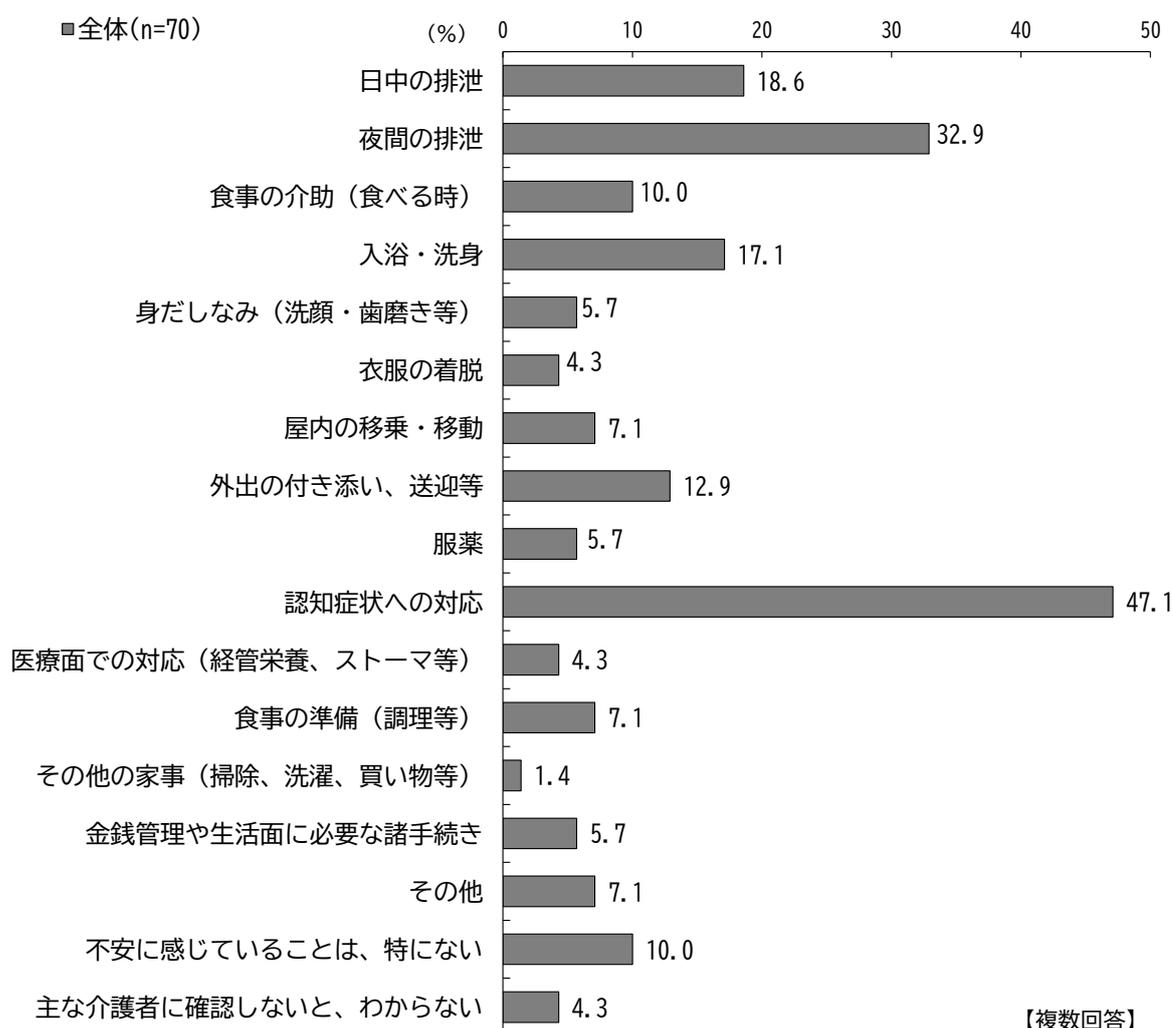
主な介護者が不安に感じる介護については、「認知症状への対応」が47.1%で最も多く、次いで「夜間の排泄」(32.9%)、「日中の排泄」(18.%)が続きます。

要介護度別でみると、要介護度が上がるにつれて、「認知症状への対応」と回答する割合が増加し、要介護度3以上では56.5%となっています。

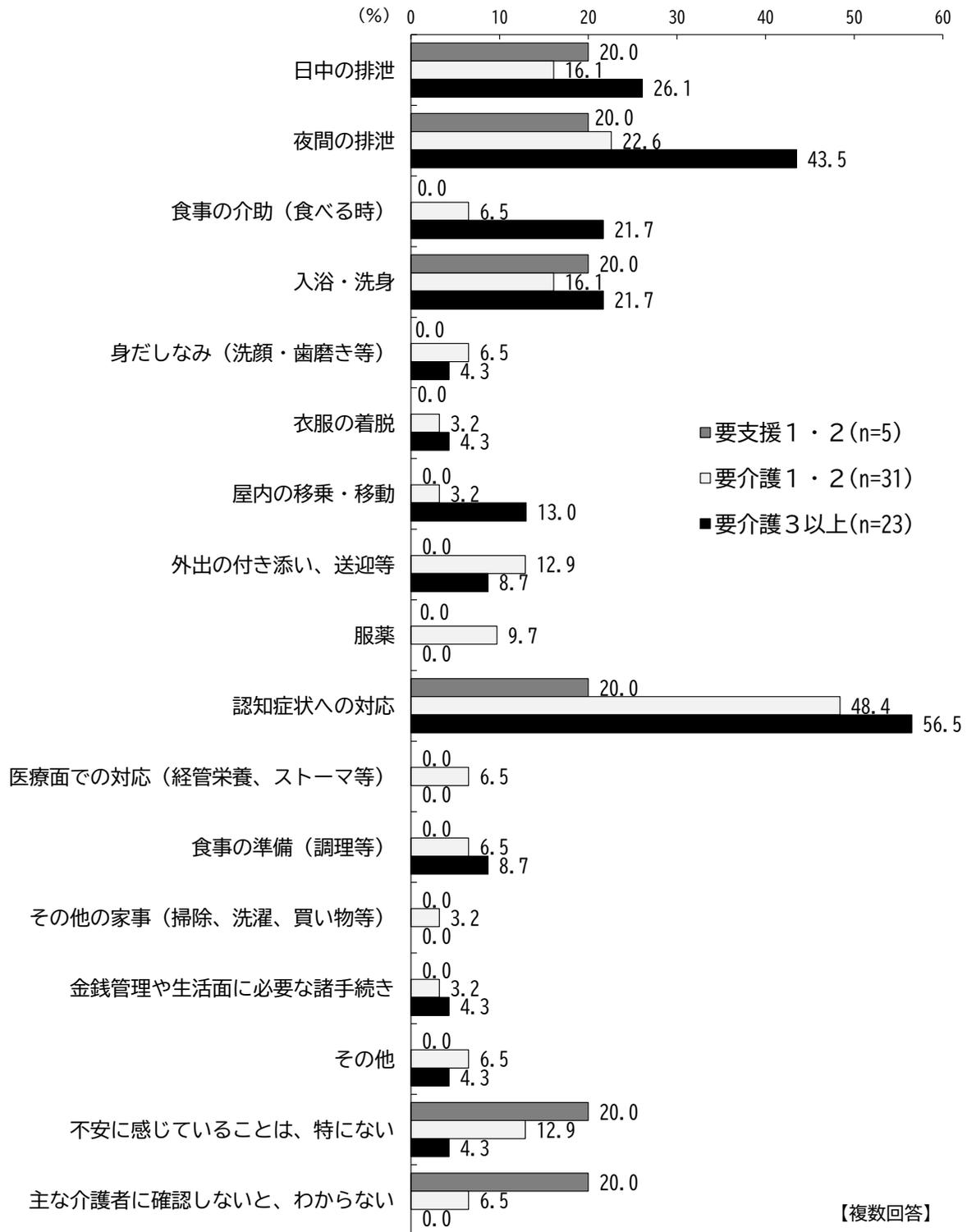
主な介護者の年齢別でみると、60歳未満、60歳以上ともに「認知症状への対応」が最も多くなっています。また、60歳未満では「服薬」(17.6%)、60歳以上では「入浴・洗身」(20.8%)と回答する割合が比較的多くなっています。

主な介護者の就業状況でみると、働いている方では「認知症状への対応」(52.3%)や「夜間の排泄」(36.4%)、働いていない方では「入浴・洗身」及び「外出の付き添い、送迎等」(同率30.4%)と回答する割合が比較的多くなっています。

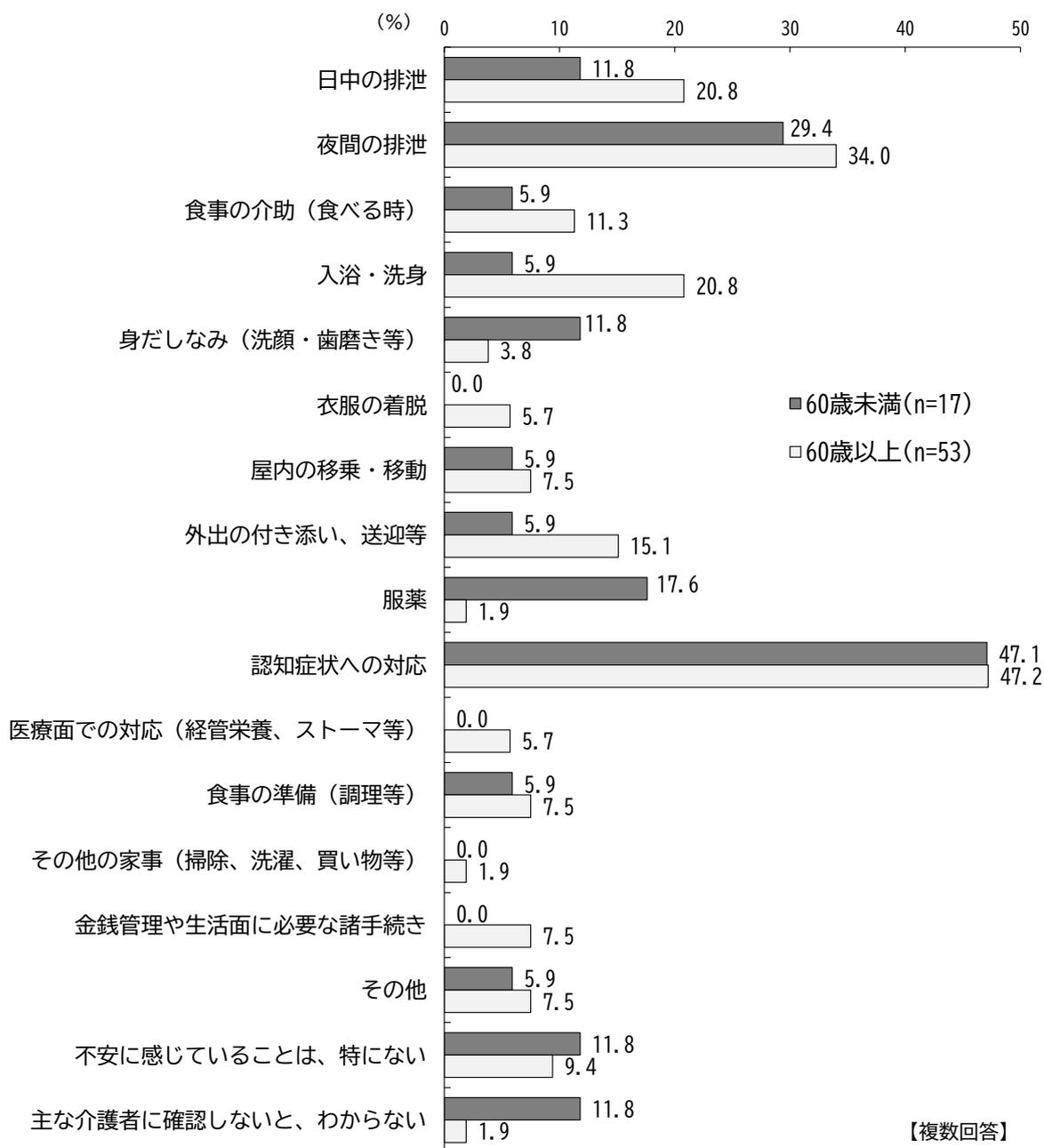
主な介護者が不安に感じる介護（全体）



主な介護者が不安に感じる介護（要介護度別）



主な介護者が不安に感じる介護（主な介護者の年齢別）



主な介護者が不安に感じる介護（主な介護者の就労状況別）

